

2023 年度

総合資料



Ichinoseki

一般社団法人 一関青年会議所

JCI Creed

The Creed of Junior Chamber International

We Believe;

That faith in God gives meaning and purpose to human life ;

That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations ;

That economic justice can best be won by free men through free enterprise ;

That government should be of laws rather than of men ;

That earth's great treasure lies in human personality ; and

That service to humanity is the best work of life

【意識】

我々はかく信じる:

「真理は人生に意義と目的を与え

人類の同胞愛は国家による統治を超越し

公正な経済は我々の自由な経済活動によってこそ果たされ

政府には人治ではなく法治が必要であり

人間の個性はこの世の至宝であり

人類への奉仕が人生最大の使命である」

JCI Mission

To provide leadership development opportunities
that empower young people to create positive change.

【意識】

青年会議所は、青年が社会により良い変化をもたらすためにリーダーシップの開発と成長の機会を提供する。

JCI vision

To be the foremost global network of young leaders.

【意識】

青年会議所が、若きリーダーの国際的ネットワークを先導する組織となる。

J C宣言

日本の青年会議所は
希望をもたらす変革の起点として
輝く個性が調和する未来を描き
社会の課題を解決することで
持続可能な地域を創ることを誓う

綱 領

われわれ J A Y C E E は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じくする者、相集い、力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るく豊かな社会を築き上げよう

東北 J C 宣言

われわれは
新たな価値を創造する旗手として
尊い「結」の精神を呼び覚まし
かつてない未来を切り拓くことを誓う

JC（青年会議所）とは

青年会議所は、「明るい豊かな社会」の実現を同じ理想とし、次代の担い手たる責任感を持った20歳～40歳までの指導者たらんとする青年の団体です。人種、国籍、性別、職業、宗教の別なく、自由な個人の意思によりその居住する各地域の青年会議所に入会することが出来ます。

全国的運動の総合調整機関として日本青年会議所が東京・千代田区にあります。また、アメリカ・チェスターフィールドには国際青年会議所（JCI）事務局があります。現在、118の国及び地域に105国家青年会議所（NOM）を数え、150,000人（2021年1月現在）が国際的な連携を持って活動しています。

日本青年会議所の綱領には、青年会議所の行動理念と目標を明確に表現しています。創立以来の「三信条」は、JC運動の歴史を迫って具体化され、青年会議所運動とは、「指導力開発(LD)と社会開発(CD)」であるとも言われてきました。その後、JC運動の基軸は「自らに活力と知力を兼ね揃え積極果敢に社会改革運動を実践できる人間」であるとの考えから「人間力開発」も必要であるとし、日常の活動の場を通じて、我々自身を開発し、市民運動の先頭に立って進む団体、それが青年会議所なのです。

JC 三信条

トレーニング＝個人の修練
サービス＝社会への奉仕
フレンドシップ＝世界との友情

1950年5月1日にJCの行動綱領としてこの三信条が採択されました。JC運動は若い人々が集まって自己啓発・修練を行う場であり、培われた力を用いて地域社会にサービス（奉仕）することであると示されました。ただし、上記に記載されたフレンドシップ（友情）とは違う意味で、会員全員、同志を貫く友情があるということと言うまでもありません。

なお、これらの言葉以外にも Jaycee を表す言葉として、「英知と勇気と情熱」と表現されることが多いが、この言葉は下記の文節から採用されたとされている。

英知「変えていくものと残すもの、その2つを見分ける英知を我に与えたまえ」

勇気「変えるべきものを変える、チャレンジする勇気を我に与えたまえ」

情熱「変えてはならないものを受け入れる、その冷静さを我に与えたまえ」

目次

■ 2023年度基調編

理事長所信	pg. 8
スローガン、基本理念、基本方針	pg. 12
組織図	pg. 13
2023年度出向者	pg. 14

■ 事業計画

若者活躍社会創造委員会	pg. 15
価値デザイン委員会	pg. 17
郷土文化交流委員会	pg. 19
会員拡大特別室、事務局	pg. 21
監事	pg. 22
出向者	pg. 23

■ 2022年度報告編

理事長報告	pg. 26
会務報告	pg. 29
組織図	pg. 42

■ 事業報告

委員会事業報告	pg. 43
出向者報告	pg. 49
会員移動報告	pg. 53

■ 資料編

pg. 54

基 調 編



一般社団法人一関青年会議所 第 68 代理事長 坂下 立志

はじめに

「JC は地元経営者の集まりだから中途半端な気持ちでやるならやめた方がいい。地元経営者でもないお前が、経営者に混ざって本気でやっていけるのか。」

2017 年一関青年会議所入会前、知人から言われた言葉です。

一関出身ではなく、経営者でもない私は、本当にやっていけるのかという不安から一言も言い返せず黙り込んでしまったことをいまでも思い出します。

そんな思いを抱えながら、現在まで青年会議所という団体を通じて、多くの役職や事業にチャレンジする機会をいただき、様々な活動や運動を必死で実行していく中で青年会議所入会前とは比べものにならないほど自信が持てるようになりました。

いま振り返ってみると多くの先輩方、仲間たちは出身が一関であるのか、経営者であるのか、それを理由に付き合い方を変える人はおらず、私が共に活動してきた一関青年会議所は地域の課題解決に向き合う人は誰でも迎え入れてくれる温かくも成長できる場所でありました。

先輩方が長きに渡り紡いでこられた理事長のバトンを、68 人目の走者として、多くの仲間と共に一年間全力で走りぬいてまいります。

若者が定着し人が集まり賑わう地域へ

一関市の人口は 1955 年をピークに減少局面に入っており、昨年も 1 年間で約 2000 人減り、今もなお減少を続けています。2022 年 3 月末時点で 11 万 679 人の人口が 2045 年には 7 万 5000 人を割り込むと想定されております。それにより生産年齢人口も減り続けており、各産業では労働者不足や後継者不足、雇用環境の悪化などが懸念されております。

さらに人口減少は消費者の減少にもつながり、地域の商業施設や小売店を日常的に利用する商圈人口は縮小していくことが見込まれています。特に、消費支出額が多い生産年齢人口の減少は、経済に大きな影響を与えるとされています。

その原因の一つは、転入よりも転出数が多いことによる転出超過からくる社会減であり、転出者の年齢分布では16歳から39歳までの若者の転出が多くなっていることがわかります。

多くの若者は仕事をし、家庭を持ち、子育てをして生活をしていきます。

より多くの若者が残ってくれるような地域になれば、生産年齢人口減少に歯止めをかけることができると考えます。

本年はひと・しごと・まちの3つの観点から若者の地域定着を促し、若者が定着し人が集まり賑わう地域を創造します。

ひと 若者の活躍を推進し地域に残るきっかけをつくる

進学を機に転出する若者がいることは、学校の少ない一関市において避けようのないことであり、若者に戻ってきたいと思ってもらうためには、仕事や収入の確保など経済面での安定はもちろんのこと、地域の利便性や娯楽施設などの環境面の充実、そして

「一関いいね。一関おもしろい。一関をもっとよくしたい。一関でチャレンジしたい。」という地域に対するポジティブな感情をもつことも大切だと考えます。

若者の中でも特に学生や子育て世代の人が生き生きとして、やりたいことができる環境をつくること、また、子供を産み育てやすいまちをつくることで地域に対するポジティブな感情を育みこの地域に残るきっかけをつくります。

しごと 価値デザインの推進で輝く地域へ

昨年、当青年会議所は持続的で豊かな地域社会の実現への第一歩として、いま地域外に流れている「ひと、もの、かね」を1%でも多く地域に残し続けるために地域内経済循環の推進をまいりました。多くの方々に賛同いただき、市内でも様々なところで経済環境の声が聞こえた一年でした。

人口が減少していく中で地域内経済循環を起こすためには、地域にお金を使いたくなる商品やサービスがあること、つまり地域の価値が重要であると言われており、2019年から内閣府は知的財産推進計画2019と題して、脱平均×融合×共感の価値デザインという考え方を普及促進してきました。価値デザインとは、地域や地域の人材のもつ平均から外れた尖った潜在能力、地域内外の輝く才能が癒合してできる新しいアイデア、そのアイデアが共感を得て価値となって実現することを言います。

ここ一関市にも他にはない突出した技術・商品や人材などが多く存在しています。いままでの価値はもとより若者の新たなアイデアをもって、様々な商品やサービス同士が融合し共感を生むことで、価値デザインの考え方が広まり、より高い地域の価値が生まれることで若者が地域に関心を持ち、地域に残るきっかけをつくります。

まち 新たな交流が作り上げる夏祭りの新しい価値

昨年、3年ぶりに開催した一関夏まつり二代目時の太鼓大巡行は、コロナ禍にも関わらず多くの市民が見学に訪れ、開催を心待ちにされていたことを再認識することができました。担い手の減少が叫ばれている地域文化である夏まつりを次代に残していくためには、若者に地域文化に対して興味を持ち、地域に残す必要性をより感じてもらう必要があると考えます。本年度いちのせき夏まつりは70回目の節目を迎え

ます。多くの関係者、関係団体との交流による連携により、二代目時の太鼓大巡行や地域文化の価値を多くの若者に感じるきっかけをつくってまいります。

一関のまちの歴史を知り、多くの人との交流の中で地域を思う気持ちを育むこと、また直接夏まつりに参加せずとも地域文化の関係人口を増やすことで、友人知人の影響で興味が生まれる機会を提供します。

地域文化に価値を感じ、地域に残りたい若者を増やすきっかけとして、二代目時の太鼓大巡行を 70 周年にふさわしいものにしてまいります。

まちを想う多くの仲間とともに

我々青年会議所メンバーは、明るい豊かな社会の実現を目指しています。

そして、日本青年会議所ではこの明るい豊かな社会を「輝く個性が調和し、社会の課題を解決することで持続可能な地域」と現代に当てはめて定義されています。

つまり様々な職種、様々な人の個性が輝き、地域に数多くある課題を解決していくことで持続可能な地域をつくっていくために我々は活動しています。また、その課題を解決するのは青年会議所メンバーではなく、我々がつくり出す運動であります。

青年会議所は青年が運動を起こすための発展と成長の機会を提供する団体です。そして、運動をつくり出すためには、運動をつくり出す人の存在が不可欠であり、40 歳が卒業となるこの組織で卒業後に地域や社会により良い変化を起こすための運動を起こせる人財を育てることこそが青年会議所の価値であります。

では誰が運動を起こすための発展と成長の機会を得られるのか。

経営者はもちろん、会社員、公務員、フリーター、専業主婦（主夫）、学生。誰もが成長と発展の機会を得られる組織であるべきだと考えます。

昨年、一関青年会議所では門戸を広げるために準会員や学生会員の制度を作りました。その制度を活用しつつ、まずは我々が数多くの仲間発展と成長の機会を提供できる団体となり、職業や性別にとらわれず、まちを想う人同士がつながることのできる会員拡大、そして、メンバーの特徴や個性が輝く組織づくりを実践してまいります。

結びに

転勤を機に 20 代前半で一関に移住した私は、仕事を通じて地域の人と触れ合い感謝され、地域を想う青年会議所のメンバーと出会い、その活動の中でこのまちのことを知り、どんどん一関が好きになり、家族ができ、この町を永住の地と決めました。

青年会議所の運動の中で学生と大人がまちの課題解決について共に考える事業を行いました。その中で「できないと思っていたことが、今日地域の大人の方と話したら、全部できることになりました。世間ってすごい。」目を輝かせて話していた学生が構想していたことが本当に実現しました。

きっとこの学生は地域や地域の大人のことが好きになり、将来これが思い出になり、一関に定着するきっかけになってくれたと思います。

好きになることのきっかけは、知ること。

私もこの学生も地域を知ることが一関を好きになるきっかけになったと思います。人口減少、生産年齢人口減少が続く中で若者に故郷に残ってもらうために我々青年が考えるべきことは、若者が地域を知り活躍できる場をいかにつくるかではないかと考えます。

We do first.

まずは我々が輝こう。

まずは我々が個性を尊重し、誰もが発展と成長の機会を得られる団体となろう。

お互いの強みを活かし、誰もが発展と成長の機会を手にすることができる団体を目指そう。

女性も男性も学生も社会人も様々な人が活躍できる団体になろう。

我々が作り上げた運動が若者に地域を知るきっかけを与え、多種多様な個性という彩あふれた持続可能な一関を目指し、運動を推進してまいります。

1年間どうぞよろしくお願いいたします。

【スローガン】



【基本理念】

若者が住みたくなるまち一関の創造

【基本方針】

若者が活躍できる地域づくりの実践

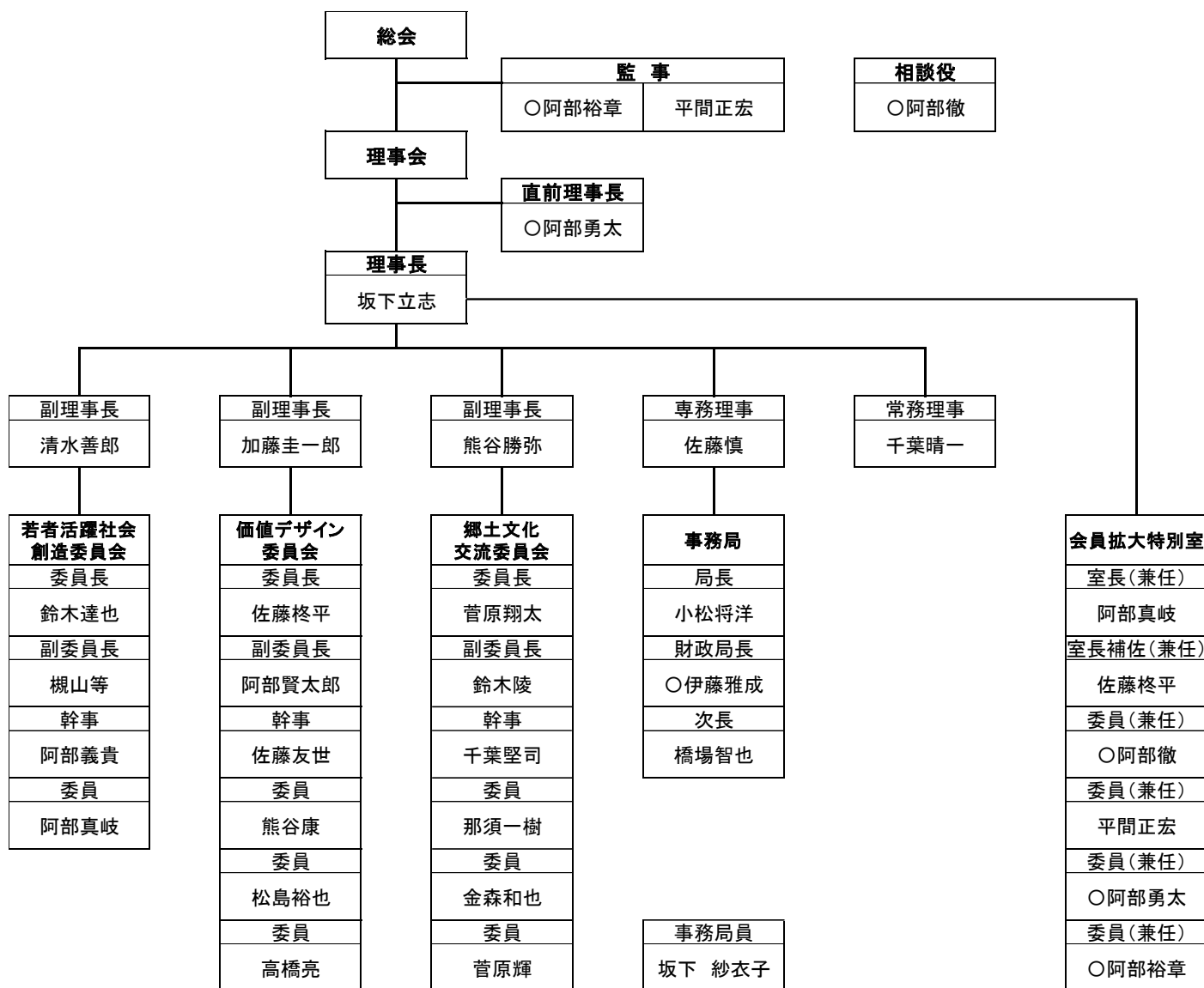
地域の未来を輝かせる価値デザインの実践、普及

新たな交流が作り上げる地域文化の継承、発展

若者同士のつながりをつくる会員拡大の実践

一般社団法人 一関青年会議所

2023 年度組織図



○ 出向者
 ※副委員長までを理事とする

2023年度 日本青年会議所・東北地区・岩手ブロック協議会
役員・委員会委員・アカデミー塾生

◆公益社団法人日本青年会議所				
・地域グループ	好循環地域確立会議	好循環マイスター	阿部 徹	君
◆東北地区協議会				
・東北地区協議会		直前会長	阿部 徹	君
◆岩手ブロック協議会				
・岩手ブロック協議会		顧問	阿部 徹	君
・岩手ブロック協議会		副会長	阿部 勇太	君
・いわてJAYCEEアカデミー委員会		塾長	伊藤 雅成	君
・いわてJAYCEEアカデミー委員会		塾幹事	阿部 裕章	君
・事務局		次長	菅原 輝	君
・岩手の未来創造委員会		委員	阿部 賢太郎	君
・ブロック大会運営委員会		委員	熊谷 勝弥	君
・連携推進委員会		委員	佐藤 友世	君
・LOM支援委員会		委員	佐藤 慎	君
・総務広報委員会		委員	千葉 堅司	君
・いわてJAYCEEアカデミー委員会		塾生	鈴木 達也	君
・いわてJAYCEEアカデミー委員会		塾生	鈴木 陵	君
・いわてJAYCEEアカデミー委員会		塾生	千葉 堅司	君
・いわてJAYCEEアカデミー委員会		塾生	菅原 輝	君

< 2023年度 委員会事業計画 >

■若者活躍社会創造委員会



担当副理事長 清水 善郎

本年度、若者活躍社会創造委員会の担当副理事長を仰せつかりました清水善郎です。

副理事長として、鈴木達也委員長をはじめとした委員会メンバーのサポートを行い、委員会スローガン「RE：BORN」のもと、若者が自分のやりたいことにのびのびと取り組み、活躍する地域社会の創造のための運動に邁進して参ります。一年間どうぞ宜しくお願いいたします。

若者活躍社会創造委員会事業計画書



担当委員長
鈴木 達也

担当副理事長	清水 善郎
担当委員長	鈴木 達也
担当副委員長	槻山 等
担当幹事	阿部 義貴
担当委員	阿部 真岐

○ 委員会スローガン

RE：BORN

○ 基本方針

若者が地域と一体となって、活躍することによる好循環の創造と、新たな仲間づくり

○ 基本計画

- ・若者が地域と一体となって活躍・成長するための事業の実施
- ・若者が地域と一体となって連携・交流できる場作り事業の実施
- ・ベビーファースト運動を認知してもらう事業の実施
- ・会員相互のコミュニケーションを取りやすくする仕組みの構築

○ 抱負

私が高校卒業まで育った地元一関には他地域と同じく少子高齢化等の課題があります。

我々、若者活躍社会創造委員会ではこの課題に対し、今後進学・社会に出て行った若者が、「地元に戻れば、より自分が成長し活躍できる！」と一関にポジティブな感情をもっていただけるようにするとともに、私達の子供たちにとっても、大きな可能性がある、持続可能な地域となるような事業に取り組んでいきたいと考えています。

これまで学んだことを、地域に還元すると共に、我々も含めた若者が活躍できる地域となることで持続可能な一関を目指します。

この度、委員長を努めさせて頂くにあたり、入会から日が浅く右も左もわからない中ですが、先輩方や委員メンバーのお力を借りながら、多くの地域の方々を巻き込んだ事業となるよう全力で取り組んで参ります。

スケジュール	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
例会主管		○		○						○		

■ 価値デザイン委員会



担当副理事長 加藤 圭一郎

この度一関青年会議所の価値デザイン委員会の担当常任を仰せつかりました。当会議所は、今求められている必要な事業とは何であるかを鑑みながら、その都度地域へ何を学び、感じ取って欲しいかを課題目的とし事業を行っております。諸先輩方のその思いを継承するよう、市内の未来を担う若者たちの為、同時に青年会議所メンバー自身が自己成長する為の事業を行っているその方向性を違わぬよう、自身の経験を活かし、学び感じた事を還元すべく真摯に向き合い職責を努める所存でございます。

価値デザイン委員会事業計画書



担当委員長
佐藤 柊平

担当副理事長	加藤 圭一郎
担当委員長	佐藤 柊平
担当副委員長	阿部 賢太郎
担当幹事	佐藤 友世
担当委員	熊谷 康
担当委員	松島 裕也
担当委員	高橋 亮

- 委員会スローガン
共創～チャレンジが地域を変える！～
- 基本方針
価値デザイン社会の実現を推進する「地域の土壌」を豊かにする！
- 基本計画
 - ・地域における「価値デザイン」の理解を促進する取組の実施
 - ・「価値デザイン社会」の実現に興味・関心を持つ人の発掘やつながりの構築
 - ・「価値デザイン」の考え方を取り入れた実践的活動や事業のプレーヤーの創出

○ 抱負

日頃、本業やプライベートの活動で感じるのは、地域をよくする取り組みに参加する若手プレイヤーがまだまだ少ないことです。限られた人によるアクションだけでは限界があります。

一方で、それを押し付けではなく、自らの意思や主体性によって参画・実践する流れをつくるのが、いまの一関市には必要な不可欠な取り組みであると感じています。

本事業を通じて、一緒に地域を良くしていく仲間と、その具体的な事実(アクション)をつくっていくことが大切です。これまでの仕事や活動で得た経験を投入し、価値デザインの思考と実践を地域に1つでも多く生み出していくことを目指します。

スケジュール	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
例会主管			○						○			

■郷土文化交流委員会



担当副理事長 熊谷 勝弥

2023 年度郷土文化交流委員会担当副理事長の任を預からせていただきます熊谷勝弥です。

2023 年度は地域の文化を若い世代に伝えるとともに、歴史がきっかけで繋がっている市外の地域などとも積極的に交流を行い、交流人口の増加を図ってまいります。

また、2023 年度開催 70 回目の節目を迎える一関夏まつりや二代目時の太鼓大巡行を彩るために、関係団体と協力し特別なものを作り上げ地域と来場者に活気と笑顔が生まれる夏まつりとすするため尽力してまいります。

私自身初めて副理事長の役を担うこととなりましたが委員長、副委員長と連携を取りながら郷土文化交流委員会で地域活性化のための運動に邁進してまいります。一年間よろしくお願いいたします。

郷土文化交流委員会事業計画書



担当委員長
菅原 翔太

担当副理事長	熊谷 勝弥
担当委員長	菅原 翔太
担当副委員長	鈴木 陵
担当幹事	千葉 堅司
担当委員	那須 一樹
担当委員	金森 和也
担当委員	菅原 輝

○ 委員会スローガン

絆とともに地域の宝物を未来へ繋ぐ～One for all All for one～

○ 基本方針

絆を深め、郷土愛、愛着心を築き、地域が誇る郷土の宝を次世代に引き継ぐ

○ 基本計画

- ・一関夏まつり 70 周年、二代目時の太鼓大巡行 40 周年、節目の年を飾る事業の実施
- ・先人たちが培ってきた地域の歴史、文化を学び郷土愛、愛着心を育む事業の実施
- ・歴史的な繋がりを持つ地域、人との交流を通じて市の魅力の発信及び交流人口の増加を創出する事業の実施
- ・二代目時の太鼓大巡行への参加者及び運営スタッフの増加に繋げる事業の実施
- ・二代目時の太鼓大巡行の実施を通じて、地域、人、家族・親子の絆を深める事業の実施

○ 抱負

先人が守り、築いてきた歴史、文化、知識などの地域資源は、一関市に輝きを与える宝物です。このもとに今日の私たちの生活があります。このことにまずは感謝しなければなりません。

また、一関で生まれ、一関で育つ子どもたち、そしてその笑顔は、市民一人ひとりに勇気と感動、そして、地域に活力を与え、次代の一関を担うかけがえのない宝物です。

私たちは、未来の一関に対して、熱い思いを込め事業を展開し、みんなで手を携え、この宝物を現代に生きる私たちが未来に繋ぎ、継承していくことで、幸せ、温かさ、活気に満ちたふるさと一関を創りあげることを目指します。

スケジュール	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
例会主管				○				○				

■ 会員拡大特別室

室長
阿部 真岐



室長補佐
佐藤 柗平



委員
平間 正宏



委員
阿部 徹



委員
阿部 勇太



委員
阿部 裕章



■ 事務局

専務理事
佐藤 慎



事務局長
小松 将洋



財政局長
伊藤 雅成



事務局次長
橋場 智也



■ 監事



監 事
平間 正宏

本年2年目の監事としての役職をお預かりいたします。2011年に入会させていただき、本年が最後の年となります。監事という重要な役職と最後の年という事で今まで、御世話になったLOMに対して恩返しができるような1年にしてみたいと存じます。また、監事という役職を頂戴し、今後のJCI一関の主となるメンバーの成長がみられる機会も多く頂戴します。

時代が目まぐるしく変わる現在、その変化を的確にとらえ、この一関の地がより良くなる未来に向けJCI一関として何ができるのか、一番最適で我々にしかできないこと、今の市民に求められているものなのかをしっかりと見極め、役員の成長を見守ると共に、さらなる成長ができるよう、精一杯役職を全うしてみたいと存じます。

集大成として1年間努めてまいります。よろしくお願いいたします。



監 事
阿部 裕章

本年度監事の役職をお預かりするにあたり、組織のチェック機能としての役割と柔軟な組織運営に、またこれまでの一関青年会議所が守ってきたものと、時勢を見た活動につながるよう微力ながら貢献できればと思います。

■公益社団法人日本青年会議所 出向者



公益社団法人日本青年会議所
東北地区協議会 直前会長
公益社団法人日本青年会議所
東北地区岩手ブロック協議会 顧問
阿部 徹



公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
岩手の未来創造委員会担当副会長 阿部 勇太

2022年度岩手の未来創造委員会委員長として出向させていただきます。役員としては初めての出向となり、緊張と不安でいっぱいですが、これまで学んできたことを生かし、また、更に成長できるよう一年間邁進してまいります。岩手の未来創造委員会では、地域資源を活かした持続可能な岩手の発信と脱炭素社会に向けた理解促進と普及が職務となっており、各地会員会議所で取組みが広がるよう運動を展開してまいります。一年間を通じて、私の学びをLOMに還元させていただきます。一年間宜しくお願い致します。



公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
いわて JAYCEE アカデミー委員会 塾長 伊藤 雅成

2023年度いわて JAYCEE アカデミー委員会塾長として出向させていただきます。2年続けての役員出向となりますが、塾長として、各LOMからお預かりする塾生の成長のために全力で務めてまいります。また、岩手ブロック協議会で学んだことをLOMに還元できるよう努めてまいります。一年間よろしくお願い致します。



公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会

事務局 事務局次長 菅原 輝

2023 年度事務局次長として出向させていただきます。初めての出向ではありますが、自分ができることを精一杯させて頂く所存でございます。岩手ブロック協議会にて学んだことをLOMに還元できるよう努めて参ります。一年間どうぞよろしくお願い致します。

・いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 幹 事	阿部 裕章	君
・岩手の未来創造委員会	委 員	阿部 賢太郎	君
・ブロック大会運営委員会	委 員	熊谷 勝弥	君
・連携推進委員会	委 員	佐藤 友世	君
・LOM支援委員会	委 員	佐藤 慎	君
・総務広報委員会	委 員	千葉 堅司	君
・いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 生	鈴木 達也	君
・いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 生	鈴木 陵	君
・いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 生	千葉 堅司	君
・いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 生	菅原 輝	君

報 告 編

〈2022 年度理事長報告〉



一般社団法人一関青年会議所
2022 年度理事長 阿部 勇太

新年おめでとうございます。年頭にあたり謹んで新春のお慶びを申し上げます。

2022年度、多くの皆様方にお力添えをいただいたおかげで、すべて事業を滞りなく終え、12月31日を迎えることができました。

この場をお借りして、地域の皆様方をはじめ、関係諸団体、会員の企業とそのご家族と多くの方々一般社団法人一関青年会議所の運動に対し、多大なるご理解とご協力を賜りましたことを、心より厚く御礼申し上げます。

2022年度は、一関地域最大の課題である人口減少に少しでも歯止めをかけるべく、地域の価値を追及し、地域外に流れる「ひと・もの・かね」を1%でも多く地域に残し続けるために「地域内経済循環」を全ての事業に取り入れて運動を推進し、今や行政や商工会議所をはじめ、多くの若者たちも巻き込んだ運動となっております。

まちに住み暮らす人達ともに自分たちのまちは自分たちで変えていくという意味を込めた「土着力」をスローガンに、地域の環境に目を向け、伝統から新たな価値を創造し、若者の自己実現と地域内経済循環を基に循環型地域社会一関を目指してまいりました。

コロナ禍3年目ということで「コロナに負けずに年間を通してJC運動を推し進める」ために各委員会が2021年の予定者段階で推進議案を作成し、従来のフォアキャスティングの考え方ではなくバックキャスティングの考え方を取り入れ事業構築をしてまいりました。

組織強化委員会では若者の地域の未来に向けた交流事業により地域を思い活動する方々とのつながりを深めることができました。また、昨年の交流から私たちの運動に関心を持っていただいた方々に青年会議所と深くかかわっていただくため、事務局と合同で定款の変更を行い準会員、学生会員を創設しました。

環境保全推進委員会では、明るい豊かな社会にも土台となる環境が重要であるということから、地域の環境に目を向ける事業を展開しました。特に一関地域の特徴である豊かな森林資源の活用と、環境保全へのつながりは、この地域に住み暮らす私たちでも新たな発見につながるものでした。

地域文化継承推進委員会では3年ぶりに開催した一関夏まつりでの二代目時の太鼓大巡行は地域の祭りを力強く彩りました。また、本年は一関の時の太鼓をモチーフに商品開発、または認知向上に向けた自動販売機の設置を地域の学生や事業者の皆様のご協力をいただき行い、郷土の価値をより高めることにつながりました。

地域の未来創造委員会では、若者採用の参考として地元企業の皆様に若者が一関に定住することにつながるために企業のビジョンの必要性、また地域内の求人メディアや学生団体からの視点をお話しいただくひとの好循環推進セミナーや地域課題の解決に若者が取り組むことで地元へ愛着を持ってもらう「いちのせきチャレンジコミュニティ」を開催しました。この「いちのせきチャレンジコミュニティ」ではご参加いただいた高校生が思い描きながらも実現できずにいた取り組みが、本事業を通して地域の方々との関わりを持てたことで実現することができました。

自立地域創造委員会では地域内経済循環の推進を最大のテーマとして、地域内事業者の皆様と考え、その重要性を共有した「地域内経済循環を共に考える意見交換会」、また、地域内経済循環を中心に共感をいただいた若者団体とともに策定した「いちのせき若者ビジョン」を開催。

当日は、関係諸団体のご臨席を賜り、ビジョン策定に参画していただいた6団体の若者、学生団体から活動内容や「いちのせき若者ビジョン」を基に次年度以降にどの様に行動していくかを各団体より発表していただきました。

また、「いちのせき若者ビジョン」をビジョンで終わらせないためにビジョン策定に参画した6団体と一関青年会議所とで「一関価値創造若者協議会」が設立されました。今後、地域内の若い力によって継続して地域の発展に向けた活動を展開されていくこととなります。

結びに、昨年の事業は1月から12月まで新型コロナウイルス感染症を理由に中止することなく、対面で実施することができましたことに2022年度のJC運動に関わっていただいた多くの皆様と日頃より現役に対するご理解、ご協力と多大なるご支援をいただいております佐々木一嘉会長をはじめとする一関青年会議所OB・OGの皆様、そして一緒に運動を創り上げてくれた各委員長とメンバーに心より感謝を申し上げ、理事長報告とさせていただきます。1年間、ありがとうございました。

〈2022 年度会務報告〉

2022年1月

日	行動内容	場所	時間	対応者
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7	第1回正副理事長会議	ベリーノホテルー関	21:00～ 22:30	正副メンバー
8				
9				
10	1月例会 新年交賀会	ベリーノホテルー関	15:00～	メンバー
11				
12				
13				
14				
15				
16	一関市新年賀詞交換会	ベリーノホテルー関	10:00～	阿部勇太
17				
18				
19	第1回常任理事会議	(株)おやまケアサービス	19:30～ 21:30	常任理事メンバー
20				
21	京都会議	WEB		メンバー
22	京都会議	WEB		メンバー
23	京都会議	WEB		メンバー
24				
25	一関もち食推進会議	なのはなプラザ3階	10:00～	阿部勇太
26				
27	第1回理事会議	WEB	19:30～ 21:30	理事メンバー
28				
29	SDGs推進躍進フォーラム	ホテル松の薫ー関		佐藤和昭 阿部賢太郎
30				
31				

2022年2月

日	行動内容	場所	時間	対応者
1				
2				
3				
4	第2回正副理事長会議	WEB	20:00～	正副メンバー
5	第39期いわてJAYCEE アカデミー開校式	WEB		メンバー
6				
7				
8				
9				
10	1月例会 新年交賀会	ベリーノホテル一関	15:00～	メンバー
11	一関八幡神社 奉祝建国祭	一関八幡神社	10:00～	阿部勇太 清水善郎 阿部裕章
12	中小企業同友会2月例会	なのはなプラザ3階	18:00～	メンバー
13				
14	第2回常任理事会議	(株)おやまケアサービス	19:30～	常任メンバー
15				
16				
17	地ビールまつり実行委員会	一関市民センター	14:00～	阿部勇太 小山裕貴
18				
19				
20				
21	中小企業同友会セミナー	なのはなプラザ3階	20:00～	阿部勇太 清水善郎 川崎能大 阿部賢太郎 加藤圭一郎 佐藤柊平 小松将洋
22	一関もち食推進会議	なのはなプラザ3階	10:00～	阿部勇太 坂下立志
23				
24	第2回理事会議	なのはなプラザ3階	19:30～	理事メンバー
25	2月臨時総会 会員拡大セミナー 第1回臨時理事会議	ベリーノホテル一関	18:00～ 19:00～	メンバー 理事メンバー
26				
27				
28				

2022年3月

日	行動内容	場所	時間	対応者
1				
2				
3				
4	第3回正副理事長会議	(有)東和警備保障	20:00～	正副メンバー
5				
6				
7				
8				
9	2月例会 地域内経済循環を共に考える 意見交換会	ペリーノホテル一関	17:30～	メンバー
10	一関国際ハーフマラソン 実行委員会	一関市総合体育館	13:30～	阿部勇太 阿部裕章
11	フードパントリー贈呈式	一関市社会福祉協議会	10:00～	阿部勇太 坂下立志 阿部裕章 佐藤和明 佐藤友世
12				
13				
14	第3回常任理事会議	(株)おやまケアサービス	19:30～	常任メンバー
15				
16				
17				
18	一関地区かわまちづくり協議会	市役所本庁	14:30～	阿部勇太
19	地域内経済循環意識調査	イオン一関店	9:00～19:00	阿部勇太 阿部徹 川崎能大 阿部賢太郎 熊谷勝弥 千葉晴一 鈴木達也 佐藤友世
20	地域内経済循環意識調査	イオン一関店	9:00～19:00	清水善郎 坂下立志 阿部裕章 川崎農大 阿部賢太郎 千葉堅司
21				
22	一関もち食推進会議	なのはなプラザ3階	10:00～	阿部勇太
23	一関夏まつり実行委員会 第3回理事会議	一関商工会議所 なのはなプラザ3階	14:00～ 19:30～	阿部勇太 清水善郎 千葉晴一 理事メンバー
24				
25				
26				
27	3月例会 林業は農業の恋人プロジェクト	(有)グリーン総業	13:00～	メンバー
28				
29				
30				
31				

2022年4月

日	行動内容	場所	時間	対応者
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7	第4回正副理事長会議	(有)東和警備保障	20:00～	正副メンバー
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15	第1回臨時正副理事長会議	(有)東和警備保障	20:00～	正副メンバー
16				
17				
18	田村神社 例大祭	一関八幡神社	10:00～	阿部勇太 清水善郎
19				
20	バルーンフェスティバル実行委員会	一関市総合体育館	14:30～	坂下立志
21	第4回常任理事会議	(株)おやまケアサービス	19:30～	常任メンバー
22	4月例会 人の好循環推進セミナー	ベリーノホテル一関	15:00～	メンバー
23				
24				
25				
26				
27				
28	第4回理事会議	なのはなプラザ3階	19:30～	理事メンバー
29				
30				

2022年5月

日	行動内容	場所	時間	対応者
1				
2	岩手ブロック協議会 会頭公式訪問	盛岡グランドホテル	18:30	阿部勇太 阿部徹 坂下立志 阿部裕章 伊藤雅成 高橋亮
3				
4				
5				
6	第5回正副理事長会議	(有)東和警備保障	20:00～	正副メンバー
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13	入会候補者向けセミナー	BAR SWAL.LOW	19:00～	阿部勇太 阿部徹 坂下立志 清水善郎 佐藤 慎 阿部裕章 加藤圭一郎 阿部賢太郎
14				
15	相馬市災害ボランティア	相馬市	9:00～	阿部勇太 阿部徹 加藤圭一郎
16	夏まつり実行委員会 幹事会	一関商工会議所3階	13:30	阿部勇太 清水善郎 千葉晴一
	倫理経営講演会	一印一関青果市場	18:00～	阿部勇太
	第5回常任理事会議	(株)おやまケアサービス	19:30～	常任メンバー
17				
18				
19	地ビールフェスティバル実行委員会	一関市民センター	9:30～	清水善郎
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26	ASPAC	現地参加 WEB	16:30～	阿部徹 坂下立志 高橋亮 メンバー
27				
28				
29				
30	一関夏まつり実行委員会	世僖の一酒造(株)	17:00～	阿部勇太 清水善郎 千葉晴一
31	一関市倫理法人会モーニングセミナー	一印一関青果市場	6:00～	阿部勇太(講師) 阿部徹 坂下立志 清水善郎 阿部裕章 千葉晴一 金野幸永
	一関もち食推進会議	一関市民センター	10:00～	阿部勇太
	第1回臨時常任理事会議		19:00～	常任メンバー
	第5回理事会議	なのはなプラザ3階	19:30～	理事メンバー

2022年6月

日	行動内容	場所	時間	対応者
1				
2				
3				
4	5月例会 一関時の太鼓の歴史から学ぼう！～ ふるさと変革への第一歩～	ベリーノホテル一関	17:00～	メンバー
5				
6	第6回正副理事長会議	(有)東和警備保障	20:00～	正副メンバー
7				
8				
9				
10				
11				
12	JCI陸前高田50周年記念式典・祝賀会	陸前高田市民文化会館	13:30～	阿部勇太 平間正宏 阿部裕章 熊谷勝弥 酒井遼 伊藤雅成
13	第6回常任理事会議	(株)おやまケアサービス	19:30～	常任メンバー
14	一関市ボランティア運営委員会		13:30～	阿部裕章
15				
16	第2回臨時理事会議	WEB	20:00～	理事メンバー
17				
18				
19	6月例会「未来のイワイヘワイワイしよう！」 一関若者活躍フォーラム	ベリーノホテル一関	13:30～	メンバー
20				
21				
22				
23	第6回理事会議	なのはなプラザ3階	19:00～	理事メンバー
24				
25	2022年度第一回理事長杯ゴルフコンペ	南岩手カントリークラブ	8:00～	メンバー
26	JCI花巻65周年記念式典	ホテルグランシェール花巻	14:00～	阿部勇太 阿部徹 坂下立志 阿部裕章 熊谷勝弥 加藤圭一郎 伊藤雅成 酒井遼
27				
28				
29				
30	一関もち食推進会議	一関市民センター	11:00～	川崎能大

2022年7月

日	行動内容	場所	時間	対応者
1	第7回正副理事長会議	(有)東和警備保障	20:00～	正副メンバー
2				
3	JCカップU-11少年少女サッカー岩手県大会	遠野 国体記念公園市民 サッカー場	9:00～	阿部勇太 伊藤雅成 酒井遼
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11	第7回常任理事会議	(株)おやまケアサービス	19:30～	常任メンバー
12	フードパントリー贈呈式	一関市社会福祉協議会	10:00～	阿部勇太 阿部裕章 佐藤和明 佐藤友世
13				
14				
15	地ビールフェスティバル実行委員会	一関市民センター	14:00～	清水善郎
16	サマーコンファレンス2022	パシフィコ横浜		現地参加 阿部勇太 阿部徹 坂下立志 阿部裕章 伊藤雅成 Zoom参加 平間正宏 清水善郎 佐藤慎 千葉晴一 熊谷勝弥 川崎能大 阿部真岐 酒井遼 高橋亮 佐藤柇平 菅原翔太
17	サマーコンファレンス2022	パシフィコ横浜		現地参加 阿部勇太 阿部徹 坂下立志 阿部裕章 伊藤雅成 Zoom参加 平間正宏 清水善郎 佐藤慎 千葉晴一 熊谷勝弥 川崎能大 阿部真岐 酒井遼 高橋亮 佐藤柇平 菅原翔太
18				
19				
20				
21	第7回理事会議	なのはなプラザ3階	19:00～	理事メンバー
22				
23				
24	7月例会 あなたの心をエコに染める 「Ichinosekiグリーンフェスタ」	一関遊水地記念公園	10:00～	メンバー
25				
26				
27	8月定時総会	ベリーノホテル一関	19:00～	メンバー
28	第8回正副理事長会議	(有)東和警備保障	20:00～	正副メンバー
29	第8回一関地区かわまちづくり協議会	一関保険センター	14:30～	阿部裕章
30				
31				

2022年8月

日	行動内容	場所	時間	対応者
1	磐井川水天宮例大祭	磐井川水天宮	10:00～	阿部勇太 千葉晴一
2				
3	2022年度 お天気祭り	石蔵クラストン	18:00～	メンバー
4				
5				
6	8月例会 二代目時の太鼓大巡行		8:30～	メンバー
7				
8				
9	第1回常任理事予定者会議	(有)東和警備保障	19:30～	2023年度常任理事予定者メンバー
10	若者活躍会議	一関市南部農業地術開発センター	16:30～	小山裕貴
11				
12				
13				
14				
15	第8回常任理事会議	(株)おやまケアサービス	19:30～	常任メンバー
16				
17				
18				
19				
20				
21	JCI久慈55周年記念式典	久慈グランドホテル	14:00～	阿部勇太 阿部徹 阿部裕章 酒井遼
22	第1回理事予定者会議	なのはなプラザ3階	19:30～	2023年度理事予定者メンバー
23	ハーフマラソン大会実行委員会	一関市総合体育館	10:00～	阿部勇太
24				
25	第8回理事会議	なのはなプラザ3階	19:00～	理事メンバー
26				
27	会員会議所会議	ベリーノホテル一関	10:00～	阿部勇太 平間正宏 阿部徹 坂下立志 清水善郎 佐藤慎 阿部裕章 川崎能大 千葉晴一 槻山等 佐藤友世 鈴木竜也
28	岩手ブロック協議会主催 いわて高校生政策甲子園	田園ホール矢巾町文化会館	13:00～	阿部勇太 伊藤雅成
29	バルーンフェスティバル実行委員会	にぎわい創造センター	14:00～	阿部裕章
30				
31				

2022年9月

日	行動内容	場所	時間	対応者
1	第1回正副理事長予定者会議	WEB	19:30～	2023年度正副理事長予定者メンバー
2				
3	東北青年フォーラムin栗原	若柳総合文化センター	10:00～	メンバー
4	東北青年フォーラムin栗原	若柳総合文化センター	10:00～	メンバー
5	第9回正副理事長会議	(有)東和警備保障	20:00～	正副メンバー
6	第2回常任理事予定者会議	なのはなプラザ3階	19:30～	2023年度常任理事予定者メンバー
7	一関夏まつり実行委員会	一関商工会議所3階	14:00～	清水善郎
8				
9				
10	一関商工会議所青年部 東北ブロック大会 岩手一関大会	一関文化センター	11:00～	阿部勇太
11				
12	第9回常任理事会議	(株)おやまケアサービス	19:30～	常任メンバー
13				
14				
15	一関八幡神社例大祭	一関八幡神社	10:00～	佐藤慎 阿部裕章
16				
17				
18	副理事長清水善郎君 結婚披露宴	ベリーノホテル一関	14:00～	阿部勇太
19				
20	夏まつり実行委員会	一関商工会議所3階	10:00～	清水善郎
21				
22	一関市拠点駅推進協議会 第9回理事会議	一関商工会議所3階 なのはなプラザ3階	10:30～ 19:00～	阿部徹 理事メンバー
23	9月例会 いちのせきチャレンジコミュニティ	ベリーノホテル一関	14:00～	メンバー
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30	第2回理事予定者会議	なのはなプラザ3階	19:30～	2023年度理事予定者メンバー

2022年10月

日	行動内容	場所	時間	対応者
1				
2				
3				
4	TGCteen一関会議		13:30～	坂下立志
5	第10回正副理事長会議	(有)東和警備保障	20:00～	正副メンバー
6	第71回全国大会 おおいた大会	大分市		阿部徹 坂下立志 高橋亮
7	パルーンフェスティバル実行委員会	一関保険センター	13:30～	清水善郎
8	第2回正副理事長予定者会議	WEB	19:30～	2023年度正副理事長予定者メンバー
9				
10				
11				
12				
13	第3回常任理事予定者会議	なのはなプラザ3階	19:30～	2023年度常任理事予定者メンバー
14				
15	JCI盛岡70周年記念式典	盛岡グランドホテル	13:00～	阿部勇太 小山裕貴 阿部徹 平間正宏 坂下立志 阿部裕章 千葉晴一 伊藤雅成 酒井遼 鈴木達也
16	JCI水沢60周年記念式典	ブラザイン水沢	14:00～	阿部勇太 阿部徹 平間正宏 坂下立志 清水善郎 阿部裕章 伊藤雅成 酒井遼 鈴木達也
17				
18	第10回常任理事会議	(株)おやまケアサービス	19:30～	常任メンバー
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25	第3回理事予定者会議	なのはなプラザ3階	19:30～	2023年度理事予定者メンバー
26				
27				
28	第10回理事会議	なのはなプラザ3階	19:00～	理事メンバー
29	U-15プログラミングコンテスト作品発表会・表彰式	一関工業高等専門学校	14:00～	阿部勇太 佐藤和明
30				
31	JCI世界会議香港大会	沖繩サテライト会場	7:30～	現地参加 阿部徹 坂下立志

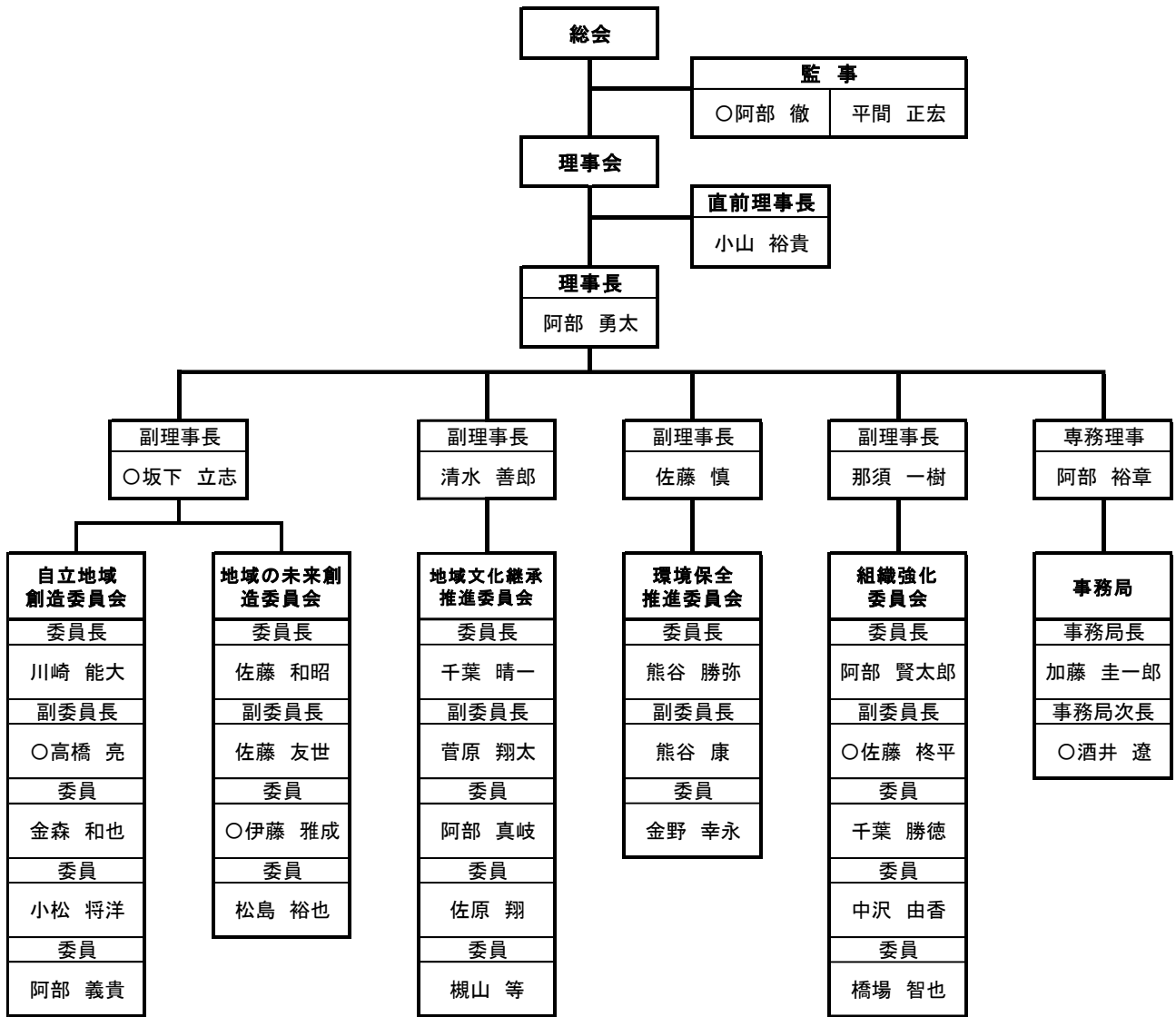
2022年11月

日	行動内容	場所	時間	対応者
1	JCI世界会議香港大会	沖縄サテライト会場	9:00~	現地参加 阿部徹 坂下立志
2	JCI世界会議香港大会 第3回正副理事長予定者会議	沖縄サテライト会場 WEB	12:00~ 19:30~	現地参加 阿部徹 坂下立志 2023年度正副理事長予定者メンバー
3	JCI世界会議香港大会	沖縄サテライト会場	18:00~	現地参加 阿部徹 坂下立志
4	JCI世界会議香港大会 第11回正副理事長会議	沖縄サテライト会場 (有)東和警備保障	20:00~	現地参加 阿部徹 坂下立志 正副メンバー
5	一関商工会議所青年部創立40周年記念式典 JCI世界会議香港大会	ベリーノホテルー関 沖縄サテライト会場	16:00~ 13:00~	阿部勇太 現地参加 阿部徹 坂下立志
6				
7	第4回常任理事予定者会議	なのはなプラザ3階	19:00~	2023年度常任理事予定者メンバー
8				
9				
10				
11	第11回常任理事会議	(有)東和警備保障	19:00~	常任メンバー
12	2022年度第一回理事長杯ゴルフコンペ	南岩手カントリークラブ	7:49~	メンバー
13				
14				
15				
16				
17				
18	第4回理事予定者会議	なのはなプラザ3階	19:30~	2023年度理事予定者メンバー
19	11月例会 次年度アワー	ベリーノホテルー関	18:30~	メンバー
20				
21				
22				
23				
24	第11回理事会議	(有)東和警備保障	19:00~	理事メンバー
25				
26	岩手ブロック協議会 役員謝恩会	あえりあ遠野	13:30~	阿部勇太 阿部徹 坂下立志 清水善郎 佐藤慎 阿部裕章 伊藤雅成 酒井遼 菅原翔太 鈴木達也 菅原輝
27	10月例会 いちのせき若者ビジョン	なのはなプラザ2階	13:00~	メンバー
28	一関青年会議所OB会役員会・懇親会	あべカ	18:00~	阿部勇太 阿部徹 坂下立志 清水善郎 佐藤慎 阿部裕章
29				
30				

2022年12月

日	行動内容	場所	時間	対応者
1				
2				
3				
4	12月例会 卒業式	ベリーノホテルー関	15:00~	メンバー
5				
6	第12回正副理事長会議	(有)東和警備保障	20:00~	正副メンバー
7				
8				
9	フードパントリー贈呈式 第4回正副理事長予定者会議	ー関市社会福祉協議会 WEB	10:00~ 19:30~	阿部勇太 坂下立志 清水善郎 2023年度正副理事長予定者メンバー
10				
11				
12	第12回常任理事会議	(有)東和警備保障	19:00~	常任メンバー
13				
14	第5回常任理事予定者会議	なのはなプラザ3階	19:30~	2023年度常任理事予定者メンバー
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22	第1回臨時理事予定者会議 第12回理事会議	なのはなプラザ3階	18:30~ 19:00~	2023年度理事予定者メンバー 理事メンバー
23	12月定時総会	ベリーノホテルー関	18:00~	メンバー
24				
25				
26	第5回理事予定者会議			2023年度理事メンバー
27				
28	二代目時の太鼓 納め式	JRー関駅		阿部勇太 清水善郎 千葉晴一 熊谷勝弥 菅原翔太
29				
30				
31				

2022年度 一般社団法人一関青年会議所 組織図



○ 出向者

※伊藤雅成君については議決権を持たない出向理事とする。

〈事業報告〉

一般社団法人一関青年会議所 2022年度				報告書				カテゴリ		
グループ名	会誌・委員会名	役職名	担当者名							
事務局	事務局	事務局長	加藤 圭一郎							
事業名								1月例会 新年交賀会	公益事業番号	
開催日時		開催場所		参加人数				事業予算		
2022年 1月10日(月曜日) 15:00~16:35		ベリーノホテル一関		対内	24名	対外	70名	合計	94名	44690円
テーマ										
メンバーと連携し、式典の企画・運営										
事業内容(200字)					全ての人びとが笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた内容の精査(200字)					
<p>・2022年度の一関青年会議所、新年度の体制、理事長所信、スローガン、各委員会の運動について内外に向けて周知するべく新年交賀会式典並びに祝賀会を実施しました。</p> <p>・各委員会が発表することにより、想定しているパートナーとの連携をどのようにしていくのかをより理解してもらえるようにしました。</p>					<p>一関青年会議所は明るい豊かな社会の実現に向け日々活動しています。しかしながら、1年間で組織が変わる団体でもあり、その活動内容は年度ごとに変わります。一関青年会議所への理解と共感を得るためには、今年度の一関青年会議所の活動内容を広く周知する必要があります。</p>					
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)					全ての人びとが笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた結果報告(400字)					
<p>一関市長(挨拶) 岩手県南広域振興局長(挨拶) 一関商工会議所会頭(挨拶) 一関青年会議所OB会長(挨拶) 公益社団法人日本青年会議所副会頭(挨拶) 公益社団法人日本青年会議所/東北地区岩手ブロック協議会 会長(挨拶) 各委員会が設定している来賓(パートナー)</p>					<p>一関青年会議所の2022年度の方針を対外に発信することにより、来賓として招いたパートナーにより連携しやすい環境を作ることになりました。また、参加者のアンケート結果からも2022年度の運動への期待や、スローガンへの共感があり、広く周知することができました。持続可能な地域の為、一関青年会議所運動への共感・協力へつながったと考えます。</p>					
その他提出物										
無										



一般社団法人日本青年会議所 2022年度				報告書				カテゴリ		
グループ名	会誌・委員会名	役職名	担当者名							
	自立地域創造委員会	委員長	川崎 能大							
事業名								2月例会 地域内経済循環を共に考える 意見交換会	公益事業番号	
開催日時		開催場所		参加人数				事業予算		
2022年03月09日(水) 17:30~20:35		ベリーノホテル一関		対内	20名	対外	38名	合計	58名	75,655円
テーマ										
地域の事業者が自ら率先して地域内消費に取り組み自立した地域への第一歩とします。										
事業内容(200字)					全ての人びとが笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた内容の精査(200字)					
<p>第1部講演、第2部ワールドカフェの2部構成で事業を行いました。</p> <p>第1部では、まず一関市副市長の講演により一関市の経済の現状を知りました。次に、東北経済産業局様の講演により、地域内経済循環の取り組みの重要性を学びました。</p> <p>第2部では、地域内経済循環の取り組みについて次のテーマでワールドカフェ形式のディスカッションを行いました。</p> <p>①今、地域内経済循環の取り組みを実践しているものはありますか？</p> <p>②今後実践できるものは？</p>					<p>地域の事業者が自ら率先して地域内消費に取り組み、自立した地域を創造するために、参加者に地域内消費の増加に取り組む事の重要性を理解してもらい、具体的な行動を明確化し、行動を始めようと思ってもらいます。</p>					
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)					全ての人びとが笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた結果報告(400字)					
<p>・一関市副市長 石川隆明 様(講師)</p> <p>・東北経済産業局 総務企画部 企画調査課 地域分析システム普及活用支援調査員 山本雄輝 様(講師)</p> <p>・一関商工会議所青年部(参加者)</p> <p>・岩手県中小企業家同友会県南支部(参加者)</p> <p>・香輝塾 一関市役所(参加者)</p> <p>・一関商工会議所 金野 剛士 様(参加者)</p>					<p>アンケートの結果、「地域内の消費を増やすことが、地域の経済にとって大切だということを理解することができた」方が100%でした。また、「地域内での消費を増やすために自分を取り組むべき行動が、明確になった」との回答が92%、「地域内消費を実際に取り組み、行動を始めようと思う」との回答が92%でした。この結果から、目的を達成することができたと考えます。</p>					
その他提出物										
なし										



一般社団法人一関青年会議所 2022年度			報告書			カテゴリ	
グループ名	会誌・委員会名	役員名	担当者名				
	環境保全推進委員会	委員長	熊谷 勝弥				
事業名	3月例会 「林業は農業の恋人プロジェクト」～森林資源活用見学会～					公益事業番号	
開催日時	開催場所	参加人数			事業予算		
2022年03月27日(日) 08:00～17:30	有限会社グリーン総業	対内	13名	対外	4名	合計	17名
							0円
テーマ	CO2の削減、軽減、温暖化抑止に取り組む市民を増やすことを目的とします。						
事業内容(200字)				全ての人びとが笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた内容の精査(200字)			
<p>第一部 地球温暖化による一関市に起こりうる問題提起 温暖化が作物に与える影響について 一関市内の資源である森林の現状 森林資源の活用法 森林資源の必要性</p> <p>第二部 チップ工場、堆肥製造の見学 有機肥料ができるまで 有機肥料への関心を生み出す なぜ気を切って循環させなくてはいけないのか 切った木はどこに行っているのか</p>				<p>地元に住み暮らす市民が現状の環境に気づき、環境保全に取り組む必要性を理解してもらう必要があります。</p>			
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)				全ての人びとが笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた結果報告(400字)			
<ul style="list-style-type: none"> ・小野寺 二男 様(参加者) ・佐々木 朋和 様(参加者) ・畠山 武将 様(参加者) ・松本 数馬 様(参加者) 				<p>参加者には、「森林資源の活用を知ることができましたか」の問いに対して94.1%の方ができたと回答してました。また、「グリーンエコミーの必要性を認識することができましたか」の問いに対して88.2%の方ができたと回答してました。この結果から参加をすれば環境保全の必要性は認識していただけますが、参加者を増やすことに課題が残りました。</p>			
その他提出物							



一般社団法人一関青年会議所 2022年度			報告書			カテゴリ	
グループ名	会誌・委員会名	役員名	担当者名				
	地域の未来創造委員会	委員長	佐藤 和昭				
事業名	4月例会 ひとの好循環セミナー～ビジョンと共感と元気玉～					公益事業番号	
開催日時	開催場所	参加人数			事業予算		
2022年4月25日(金曜日) 15時00分～17時00分	ベリーノホテル一関	対内	21名	対外	32名	合計	53名
							120,000円
テーマ	ひとの循環するまち一関を創る契機とする事業の実施						
事業内容(200字)				全ての人びとが笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた内容の精査(200字)			
<p>一関市の30歳未満人口の減少に対する現状と今後の状況に対する懸念を共有し、将来若者が地元に戻る受け皿となる、地域や企業の5年後、10年後のビジョンを提供する企業を増やし、ひとの循環するまち一関を創る契機とするため、以下の事業を行いました。</p> <p>1. ひとの循環の概要及び若者が求める企業の情報についての調査発表 2. 一関、平泉地域の企業の事例発表 3. 地域の未来創造委員会、連携パートナーの事業案内</p>				<p>一関市では30歳未満の人口が急激に減少しています。この状況が続けば、市内の労働力不足が深刻化する恐れがあります。市内企業が継続的に成長するために、若手人材の確保が必要です。</p>			
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)				全ての人びとが笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた結果報告(400字)			
<p>株式会社アーク(事例発表) 川崎印刷株式会社(事例発表) 株式会社オヤマ(事例発表) 朝田建設株式会社(事例発表) イワズカン編集部(事例発表) Creo creators(事例発表) 一関商工会議所(共催) 一関市(後援) 一関、平泉地域企業・個人 市内教育機関</p>				<p>アンケートの結果、「一関でのひとの循環(青少年の市内での就労、起業、U1)ターンを通して、人口流入を促進する人の流れ」が必要だと思った方が93%でした。また、「事例発表を通して、若者に企業理念やビジョンを提供する必要性が理解出来た」方が93%でした。一方で、「自社の企業理念やビジョンを発信する機会を増やす」方が63%となっており、ひとの循環するまち一関を創る契機として、意識変更につながったものの、行動変更はもう一歩であったと考えます。</p>			
その他提出物							
無し							



一般社団法人一関青年会議所 2022年度				報 告 書				カテゴリー		地域文化	
グループ名	会 員 委 員 会 名	役 職 名	担 当 者 名								
地域文化継承推進委員会	地域文化継承推進委員会	委員長	千葉 晴一								
事業名	5月例会 一関時の太鼓の歴史から学ぼう！～ふるさと変革への第一歩～						公益事業番号	共益事業			
開催日時	開催場所	参加人数		事業予算							
2022年06月04日(土) 17:00～19:00	ペリーノホテル一関	対内	25名	対外	60名	合計	85名	320,000	円		
テーマ	～地域文化の継承と一関時の太鼓の歴史について～										
事業内容(200字)				全ての人びとが笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた内容の精査(200字)							
①担い手の増加や地域の活力向上に繋がる事業の実施②先人たちが培ってきた知識や想いを次世代の若者たちに引き継ぐ活動の実施③時の太鼓という文化を質的に高い価値と捉え新たな経済循環の創出をする事業の実施④時の太鼓がもつ歴史と文化を活用し発展させていく事業の実施 ※講演会テーマ：一関時の太鼓の歴史から学ぶ～これからの地域に必要なこと～ ※(有)菓子工房シェルブルーと一関修紅短期大学食品栄養科との地域経済内循環コラボ事業 ※二代目時の太鼓大巡行ラッピングした自販機の設置 ※すずめ踊り祭連棟との事業協力について				地域の事業者が自ら率先して地域内消費に取り組み、自立した地域を創造するために、参加者に地域内消費の増加に取り組む事の重要性を理解してもらい、具体的な行動を明確化し、行動を始めようと思ってもらいます。							
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)				全ての人びとが笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた結果報告(400字)							
田村家第57代当主 田村任護 様 すずめ踊り祭連 理事長 萩田進 様				①時の太鼓の歴史や文化に対する関心を高めることで、地域文化を活用した経済循環への取組意欲が高まり担い手の増加に繋がり、地域文化の価値を捉え新たな経済循環の創出をすることで、地域文化の価値(一関時の太鼓)を広められ新たな地域内経済循環の構築に繋がりました。							
その他提出物											



一般社団法人一関青年会議所 2022年度				報 告 書				カテゴリー			
グループ名	会 員 委 員 会 名	役 職 名	担 当 者 名								
	組織強化委員会	委員長	阿部 賢太郎								
事業名	未来のイワイハイワイしよう！一関若者活躍フォーラム						公益事業番号				
開催日時	開催場所	参加人数		事業予算							
2022年6月19日(日) 13:00～16:50	ペリーノホテル一関	対内	21名	対外	33名	合計	54名	150,000	円		
テーマ											
事業内容(200字)				内容の精査(200字)							
循環型地域社会「一関」の創出に向けて地域で活躍する若者との相互理解、相互交流を促進するため、地域における若者の活躍に興味がある方を招き、フォーラムを開催しました。第一部では今年度の一関青年会議所に設置された各委員会に関連する分野で活躍する若者を招き、対談を行いました。第二部では若い参加者と「自分たち若者がこれからやっていきたいこと」「若者が活躍するために取り組んで欲しい政策、制度」について意見を交換しました。				※重要：具体的にご記入ください。							
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)				結果報告(400字)							
・磐乃井酒造 専務取締役 佐藤竜矢様 地元産の原材料にこだわりを持った日本酒造りに取り組む地域内経済循環の実践者です ・一関工業高等専門学校専攻科 Creo creators代表 菊地佑太様 現役高専生ながら ・一関工業高等専門学校5年 学生会育成・渉外担当補佐官 上野祐太郎様 学生会長時代に高専生が学業や部活以外の面でも活躍するきっかけをつくる「コブプロジェクト」を立ち上げました。 株式会社 加藤佳代様 農事組合法人門崎ファーム 中芝浩美様				※重要：実施効果・今後の課題等をご記入ください。 意見交換会の時間が足りなかった。 参加者が20歳前後の年齢に偏っていたため、広く40歳以下の方にも参加いただけるように告知活動を行わなければなりません。							
その他提出物											
なし											



一般社団法人一関青年会議所 2022年度			報告書			カテゴリ	
グループ名	会誌・委員会名	役員名	担当者名				
	環境保全推進委員会	委員長	熊谷 勝弥				
事業名	7月例会 あなたの心をエコに染める「Ichinosekiグリーンフェスタ」					公益事業番号	
開催日時	開催場所	参加人数			事業予算		
2022年 7月24日(日)	一関市遊水地記念緑地公園	対内	23名	対外	178名	合計	201名
10:00~15:00							190158円
テーマ	一関の環境保全の取り組みを市民に広く知っていただき行動変容の起点となること						
事業内容(200字)				全ての人びとが笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた内容の精査(200字)			
一関地域の方々に一関の環境と地域内経済循環の活性化のために地域の環境に関係する企業のご協力をいただき企業ブースを設置し、ワークショップや会社説明、商品の物販などを行いました。また会場内では花泉の米農家で作ったもち米で餅を作り餅まきお振舞いや一関市役所で作られた再生紙を使い参加者にエコ宣言を記入した紙で紙飛行機飛ばし大会なども行いました。退場した市民の方々に楽しみながら、一関の環境や地域企業の取り組みや商品を知っていただく機会となりました。				今回7月例会を行い178名の市民の方が来場し一関地域の環境問題や地域の企業の取り組みなどを知っていただける機会になった。環境問題は今後解決していかねばならない課題の一つです。今後も持続可能な地域にしていくためにも継続して環境について考えていかねばならないし、発信していかねばなりません。今後このような事業を行う際は個人や企業、行政などをターゲットに事業を展開する上で、手法を変えながら事業展開していく必要があります。より多くの事業所とのタイアップが必要だとおもいます。実際に来場された方の中には「もっと多くのブースがあれば良かった」の声や開催途中で参加企業様以外にもも当社も参加したかったなどの声をいただいておりますので、企業リサーチを行い参加企業の増加を図ることにより多くの人や企業に環境意識の向上に繋がる事業が出来ると思います。			
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)				全ての人びとが笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた結果報告(400字)			
永沢木材株式会社 様 株式会社デクノボンズ 様 佐藤工務店株式会社 様 上山製紙株式会社 様 有限会社グリーン総業 様 キッチンカーDean 様 KOZENJI café 様				一関の環境保全の取り組みを市民に広く知っていただき行動変容の起点となることを目的として事業を展開し来場された市民の方々には一関の環境について考える機会が提供出来たと考えます。入場時に配布させていただいた冊子に各企業が感じている環境の変化や弊害について業種別で記載し来場者の方々には冊子を見ながら出展ブースで現状を見て聞くことで8割以上の方々に一関の環境についての現状を理解していただきました。また、冊子にて配布したことで、来場されてない家族やその他の方々の目につく機会を考えると効果は事業の当日以外も波及効果はあったと考えます。また、地元企業のブースで体験や商品説明を聞くことで9割の方々に地元企業や商品を知りていただけたことで、地域内経済循環のきっかけになったと思います。			
その他提出物				なし			



一般社団法人一関青年会議所 2022年度			報告書			カテゴリ	
グループ名	会誌・委員会名	役員名	担当者名				
地域文化継承推進委員会	地域文化継承推進委員会	委員長	千葉 晴一				
事業名	8月例会 二代目時の太鼓大巡行『～未来をここから～』					公益事業番号	共益事業
開催日時	開催場所	参加人数			事業予算		
2020年08月06日(土)	一関市	対内	23名	対外	123名	合計	143名
10:00~22:00							770,000円
テーマ	コロナ禍二代目時の太鼓大巡行×すずめ踊り祭連						
事業内容(200字)				全ての人びとが笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた内容の精査(200字)			
①地域の活力再生に寄与する祭りとして新たにすずめ踊り祭連さまに参加いただき、新型コロナウイルスの感染症対策をとった上で二代目時の太鼓大巡行を実施しました。 ②二代目時の太鼓大巡行専用HP作成				二代目時の太鼓大巡行を質的に高い文化であり価値があることについて市民に理解と再認識いただくことが重要であり、年々夏まつりや巡行の担い手が減少していることに対して、参加意欲の向上と広報戦略や新たな取組が必要になってきます。			
時の太鼓顔彩会、炎舞会、田村家、一関市役所、一関商工会議所、一関市観光協会、一関青年会議所OB会、長昌寺、マリア美容院、JR一ノ関駅、F Masmo すずめ踊り祭連				8月例会ではコロナ禍の中、3年ぶりにコロナ対策を行い開催することができました。4.4年間一関青年会議所が継続してきた事業に、新たなアクセントとして、二代目時の太鼓大巡行専用HPの作成をし、歴史と背景を市民にってもらい質的に高い価値を広める運動と、すずめ踊り祭連さまに新たな協力団体として参加いただき、二代目時の太鼓大巡行の担い手を増やすこともできました。アンケート結果からも市民が質的に高い文化であることの認識と再確認、また二代目時の太鼓大巡行の参加意欲が高まったとの回答が多く、本事業は市民によりよい変革を与えることができJC運動として成立したと推測致します。			
その他提出物							



一般社団法人一関青年会議所 2022年度				報告書				カテゴリ	
グループ名	会誌・委員会名	役職名	担当者名						
	地域の未来創造委員会	委員長	佐藤 和昭						
事業名	9月例会 いちのせきチャレンジコミュニティ						公益事業番号		
開催日時	開催場所	参加人数				事業予算			
2022年09月23日(金) 14時00分～17時00分	ペリーノホテル一関	対内	19名	対外	40名	合計	59名	95000円	
テーマ	地域課題の解決に興味をもつ若者が増やす事業								
事業内容(200字)				全ての人びとが笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた内容の精査(200字)					
第1部では、NPO法人底上げ 成宮崇史様、(一社)まるオフィス 三浦亜美様より、気仙沼市で行われている、高校生と地域の大人の活動事例をお話いただきました。第2部グループディスカッションでは、前半の「探究学習の共有、検討」では、高校生参加者の学習内容把握及びJCメンバー、地域企業の参加者の持つ知識、経験などの情報共有を行い、後半の「今後の行動計画の策定」では、今後の具体的な活動を定めました。				一関市では30歳未満の人口が急激に減少しています。これは進学、就職等により地域外に転出した若者が、その後も地元に戻らない状態が長年続いていることがひとつの原因です。若者が進学、就職する前に、地域課題に関心を持ち、将来若者が地域に戻るきっかけを作る必要があります。					
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)				全ての人びとが笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた結果報告(400字)					
講師： NPO法人底上げ 理事 成宮崇史様(外部パートナー、実施協力) 一般社団法人まるオフィス 学び企画コーディネーター 三浦亜美様 (外部パートナー、実施協力) 共催：一般社団法人いわて圏(外部パートナー、実施協力) 後援：一関市 参加者： 市内高等学校、一関・平泉地域企業・個人、一関高専φterase、 学生団体FUTUREMIX、一関市役所(政策企画課、若者活躍推進室、農地林務課)、一関保健所				事業開催により、高校生の探究学習を地域の大人のサポートする形を参加者に示すことができたと考えます。事業のグループディスカッションを経て実現したイベントもありました。今後も同様の活動を継続することで地域課題の解決に興味を持つ若者を増やすことができ、ひとの循環が創造できると考えます。					
その他提出物									



一般社団法人一関青年会議所 2022年度				報告書				カテゴリ	
グループ名	会誌・委員会名	役職名	担当者名						
	自立地域創造委員会	委員長	川崎 能大						
事業名	10月例会 いちのせき若者ビジョン						公益事業番号		
開催日時	開催場所	参加人数				事業予算			
2022年11月27日(日) 13:00～14:33	なのはなプラザ2階にぎわい創造センター	対内	17名	対外	14名	合計	31名	57,419円	
テーマ	若者が考える地域の目指すべき方向性を各団体と共有することを目的とします。								
事業内容(200字)				全ての人びとが笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた内容の精査(200字)					
若者団体が今後継続的に連携して地域課題に取り組み、実践していくためのビジョン策定及び実行委員会の立ち上げを行いました。ビジョンは、参加団体から事前ヒアリングをした上で、団体代表者がディスカッションして、決定しました。策定したビジョンを、事業当日にメディア及び一関市若者活躍推進室を呼んでお披露目を行いました。				自立した地域を創造するために地域内経済循環の取り組みを推進します。その取り組みの一環として、地域で活動する若者団体、学生団体と共にビジョンを策定し、共通のビジョンに向けて活動していくとします。					
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)				全ての人びとが笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた結果報告(400字)					
・一関市 市長公室 若者活躍推進室 室長 阿部繁樹 様(事業参加) ・一関市 市長公室 若者活躍推進室 主任主事 阿部国美 様(事業参加) ・一関まちづくりの会 会長 千葉龍我 様(参加団体代表) ・Imanect 代表 藤原捷羽 様(参加団体代表) ・学生団体CO代表 池田暁 様(参加団体代表) ・Creo creators 菅原真真 様(参加団体担当者) ・φterase 代表 上野裕太郎 様(参加団体代表) ・FUTUREMIX 菅原宏太 様(参加団体担当者)				ビジョンを策定することができました。なおかつ、事業がきっかけとなりビジョン実現のための団体が発足したため、目的を達することができました。					
その他提出物									



一般社団法人一関青年会議所 2022年度			報告書			カテゴリー		
グループ名	会館・委員会名	役員名	担当者名					
事務局	事務局	副理事長	佐藤 慎					
事業名	11月例会 次年度アワー					公益事業番号		
開催日時	開催場所	参加人数			事業予算			
2022年11月19日(土) 18:30~20:50	ペリーノホテル一関	対内	23名	対外	24名	合計	47名	68,970円
テーマ	地域で能動的に生き生きと活躍する若者を増やす							
事業内容(200字)				全ての人がが笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた内容の精査(200字)				
・アフターコロナに向けてと題して、コロナ収束後による未来に備えて新たな展開を望む交流を参加者に持たせ、ビジネス環境、コミュニケーション、情報共有など直接的に企業、団体、個人同士の交流を実施しました。				一関市は、人口減少が大きな問題となっており、特に若者の転出超過による社会減は昔年の課題であり、地域にとって大きな損失です。 若者の転出超過に歯止めを掛け、持続可能で豊かな一関を実現するためには若者活躍そして若者定着は急務となっております。 地域を想い、本気で行動を起こし、チャレンジする若者を一人でも多く地域に残す必要があります。				
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)				全ての人がが笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた結果報告(400字)				
【メンバー紹介参加者】 ・加藤 和生様・中澤 倫様・岩本 勇樹様・山田 龍太郎様・畠山 成光様 ・畠山 ゆかり様・金野 佳貴様・千葉 裕理様・二階堂 友哉様 ・南 文雪様・小山 貴浩様・加藤 昌範様・千葉 俊太様・千葉 周太郎様 ・千葉 和樹様・菊池 円華様 【学生団体】 φterase・上野 裕太郎様・館 和洋様・柴田 陵星様 Imanect・藤原 徒羽様・佐々木 悠人様 Creo creatos・菅原 隼真様・三上 主馬様・川村 樹様				地域のために活動を起こす人が増えたことにより個人または団体、企業が地域のために活動を起こす考えが生まれたと考えます。この事業を契機として、メンバーとオブザーバーで事業展開が生まれたことから地域内経済循環を促進できたものと考えます。				
その他提出物								



一般社団法人一関青年会議所 2022年度			報告書			カテゴリー		
グループ名	会館・委員会名	役員名	担当者名					
	事務局	事務局長	加藤 圭一郎					
事業名	12月例会「卒業式 式典の部」					公益事業番号		
開催日時	開催場所	参加人数			事業予算			
2022年12月4日(日) 15:00~17:00	ペリーノホテル一関	対内	23名	対外	15名	合計	38名	149,425円
テーマ	卒業式の企画・運営							
事業内容(200字)				循環型地域社会一関の創造に向けた内容の精査(200字)				
現在の一関青年会議所は20歳から40歳までが所属することができる団体であり、40歳を迎えた会員が毎年12月に卒業します。我々現役メンバーは、卒業生へ今までの感謝を伝え、卒業生からは想いを託される機会が必要です。卒業生の思いを受け取り、今後の活動への意欲を強く持つことを目的として卒業式式典の部を開催しました。 理事長阿部勇太君の式辞、メンバーを代表して坂下立志君、熊谷勝弥君、千葉晴一君の送辞、卒業生、小山裕貴君、川崎能大君、金野幸永君の答辞から卒業生のこれまでの活躍と想いを受け取り、メンバーの今後のJC活動への動機づけにつながる事業となりました。				今年度取り入れてきた地域内経済循環に沿って、例年日本青年会議所のショップから購入していた卒業記念品を県内の同様の商品を取り扱う業者に変更して用意しました。また、日頃よりお世話になっているペリーノホテル一関様や市内の生花店様のご協力により実施されたことは当日のみならず、地域内での今後の消費活動につながるものと考えられます。				
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)				循環型地域社会一関の創造に向けた結果報告(400字)				
一関青年会議所OB会 会長 佐々木 嘉先輩 (お祝いの言葉) 一関青年会議所OB先輩の皆様 14名				地域の課題を解決し、持続可能な社会につながるために本年は「循環型地域社会一関」の創造に向けて運動を行ってまいりました。本事業では卒業生のこれまでの活躍や想いに触れ、残るメンバーのこんごのJC活動だけでなく、卒業後OBとしても意識することがあるとの認識が広まったと考えられます。これは地域が今後も持続していくための活動、運動のもととなる個々人の意識に訴えるものであり、その認識からそれぞれの今後の活動に生かされると考えられます。				
その他提出物								



〈役員出向者報告〉

公益社団法人日本青年会議所

東北地区担当 常任理事
東北地区協議会 2022 年度 会 長
東北地区岩手ブロック協議会 顧 問
阿部 徹

2022 年は、社会情勢が劇的に変わる年でありました。

2020 年からの新型コロナウイルスの蔓延が未だに収まらず、また 2 月にはロシアによるウクライナへの軍事侵攻をした出来事は衝撃的であり、世界秩序が乱れる要因となりました。その影響は、新型コロナウイルスによって疲弊した世界経済のみならず、我々が住み暮らす地域経済にも、エネルギーや物価の高騰をもたらし、地域経済に更なる疲弊となる要因となりました。

さらに東北で 3 月には大きな地震、7 月には豪雨があった年であり、災害支援活動においても東北地区協議会として災害支援活動を行った年でありました。

まさに不確実な時代を生きる私たちにとって、これからは新たな情報を得ながら、社会情勢に対応していく力を備えていかなければなりません。

2022 年度の東北地区協議会は、「東北の資源を活かした新たな価値創造による愛が溢れる東北の実現」を基本理念に掲げ、価値デザインや脱炭素の考え方、手法を取り入れ、東北の地域と LOM に強みを創ることに重点を置き運動を展開してきました。この運動が、東北のそれぞれの地域の強みを創り、かつ地域内で経済やヒト、モノを循環できるようになれば、今後は新型コロナウイルスの蔓延による人の移動制限や輸入に頼っているエネルギー資源や物価の高騰にも耐えられる自立した地域の創造につながると考え実践をしてきた 1 年でありました。

さらに、東北地区協議会は、東北 75LOM の連絡調整機関でありながら、最大の目的としているのは「LOM 支援」であり、東北 75LOM の発展が東北地区協議会の使命であるので、次世代の東北のリーダーの育成や各ブロック協議会と連携をして、LOM の課題把握や日本本会の事業や政策推進に地区の組織の機動力をもって尽力をしてきました。

青年会議所という組織の中で、東北の地域をより良く変えていくのは、あくまでも東北 75LOM の JC 運動なのであります。JC 運動によって、その地域がより良くなり、その地域の集合体が各県や東北、ひいては日本を良くしていくことにつながっていくのであります。

私たち東北地区協議会は、各 LOM が JC 運動を起こしていくために有益な情報を提供し、しっかりと LOM に寄り添い、JC の活動による課題を把握し、LOM のためになるように効果的に本会の政策立案に寄与する活動をしていかなければならない組織です。

JC 宣言文の一文にあるように「社会の課題を解決することで 持続可能な地域を創ることを誓う」という内容の通り、東北のそれぞれの地域が JC 運動によって「持続可能性」の価値観 を高めていき、「デジタル化の進展とリアルとの融合」によって、地理的移動距離を超えた様々なイノベーションが起こっていくことが、日本の「一極集中から多極分散」という自立した地域の創造の起点となるはずであります。

2022年の東北地区協議会の運動が、これからの日本を牽引する自立した地域を多く創り出し、東北の明るい未来を切り開いていく一助になれば幸いです。

最後になりますが、このように JCI 一関から東北地区協議会の会長としての役割を全うできたのも、阿部勇太理事長をはじめとするメンバーの協力があったからこそであります。

そして、一緒に東北地区協議会へ役員、スタッフとして出向してくれたメンバーにも深く感謝を申し上げます。

1年間、ありがとうございました。

メンバーの皆様にも心よりの感謝を申し上げ、会長としての報告といたします。

公益社団法人日本青年会議所

東北地区協議会 組織運営グループ 運営専務

東北地区岩手ブロック協議会 出向役員

坂下 立志

2022年度は、公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会運営専務として、会長阿部徹君、事務局局長高橋亮君、事務局次長佐藤柗平君多くの出向メンバーとともに出向する機会をいただきました。

1年間 LOM のメンバーや OB 会皆様には様々な支援、協力をいただき、本当にありがとうございました。組織運営や会議運営、東北全域の青年会議所との広域的な連携など LOM には経験することのできないことを多々経験させていただきました。1年間で得た最大のメリットはやはり仲間であると思います。東北中に相談できる仲間がいることは、個人的にも LOM としても出向して得た財産です。得られた経験を LOM や地域に還元していきたいと思います。1年間本当にありがとうございました。

公益社団法人日本青年会議所

東北地区協議会組織運営グループ 事務局局長

東北地区岩手ブロック協議会 出向役員

高橋 亮

公益社団法人日本青年会議所

東北地区協議会組織運営グループ

事務局次長 佐藤 柗平

公益社団法人日本青年会議所

東北地区 岩手ブロック協議会

岩手の未来創造委員会 委員長 伊藤 雅成

岩手の未来創造委員会委員長として出向の機会を頂戴し、1年間運動を行いました。岩手ブロック大会 in みやこでは質的価値創造を広めるためのフォーラムとカーボンニュートラルに取り組むきっかけとするフォーラムをそれぞれ行わせていただきました。また、会場内に、県内各地会員会議所にご協力いただき、各地の質的価値の事例をパネル展示し、質的価値の具体例を知っていただく機会を設けました。さらにカーボンニュートラルの実践例として、日産自動車の電気自動車の展示等を行い、脱炭素社会実現に向けて何に取り組めるのかを体験していただきました。

この一年を通じて多くの学びと経験をさせていただきました。今後 LOM に還元していきたいと思います。1年間サポートしていただいた皆様、本当にありがとうございました。

公益社団法人日本青年会議所

東北地区 岩手ブロック協議会

LOM 支援委員会 委員長 酒井 遼

岩手ブロック LOM 支援委員会委員長として1年間出向させて頂きました。

各 LOM メンバーが多様な価値観や考えに触れ、自身の成長に繋げてもらうことを目的に、3月に多様性のある組織に向けた交流会の実施並びに組織強化に向けた調査・研究を行わせていただき各 LOM に対し、情報提供をさせて頂きました。

6月、7月には岩手ブロック内、全ての LOM を訪問させて頂き、各 LOM がどのようなことに対して悩んでいるのかを課題抽出させて頂きました。

その中で会員拡大について悩んでいる LOM が多数あったため各 LOM 会員拡大担当者を集め意見交換、情報交換をする場を設えさせて頂きました。

11月には有益な情報提供の締めくくりとして LOM 支援委員会設えの元 JCI 盛岡、伊藤淳之介君、JCI 一関、阿部徹君の2名を講師としてお招きし出向への魅力について熱い対談を行って頂きました。

出向させて頂く機会を提供いただいたことを心より感謝いたします。

皆様のサポート無しにはこの1年間を乗りきることは困難だったと感じています。

本当に1年間ありがとうございました!!

公益社団法人日本青年会議所

東北地区 岩手ブロック協議会

岩手の未来創造委員会 幹事 菅原 翔太

公益社団法人日本青年会議所

東北地区 岩手ブロック協議会

LOM 支援委員会 幹事 加藤 圭一郎

公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
ブロック大会運営委員会 委員 槻山 等

公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
LOM 支援委員会 委員 阿部 裕章

公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
総務広報委員会 委員 佐藤 友世

公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
いわて JAYCEE アカデミー委員会 塾生 菅原 翔太

公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
いわて JAYCEE アカデミー委員会 塾生 佐藤 柊平

公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
いわて JAYCEE アカデミー委員会 塾生 小松 将洋

公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
いわて JAYCEE アカデミー委員会 塾生 阿部 義貴

公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
いわて JAYCEE アカデミー委員会 塾生 金野 幸永

<2022年度会員移動一覧>

<新入会員> (8名) 小松 将洋 君

佐藤 柊平 君

阿部 義貴 君

金野 幸永 君

鈴木 達也 君

鈴木 陵 君

千葉 堅司 君

菅原 輝 君

<退会会員> (6名) 木村 俊之 君

佐藤 琢哉 君

畑瀬 雅人 君

中沢 由香 君

千葉 勝徳 君

佐藤 和昭 君

<卒業会員> (5名) 小山 裕貴 君

佐原 翔 君

川崎 能大 君

酒井 遼 君

金野 幸永 君

資料編

青年会議所とは

理念と目的

青年は理想に燃え、未来への期待を常に強く持っています。希望に満ちた明るい豊かな社会、正義が行われる理想の社会の実現を心から熱望するために、青年は次代の担い手として大きな責任を自覚し、新しい世界のための推進力にならなければならないと考えます。

青年のこの夢を実現するため、同じ理想と使命感を持つ若い世代の人々を広く共通の広場に集め、友情を深めつつ、強く影響し合い、刺激しあって、“若さ”がもつ未来への無限の可能性を自分たちの手で効果的に描き出し、“明るい社会”を目指して、青年の情熱から生まれる果敢な行動を結集すべく、組織された団体が青年会議所(JC=Junior Chamber)です。

「われわれJAYCEE(青年会議所会員)は、社会的、国家的、国際的な責任を自覚し、志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう」との日本青年会議所綱領は青年会議所の決意、行動理念と目標を明確に表現しています。

特質

青年会議所を他のすべての団体から区別する最大の特質は、会員の“年齢制限”にあります。会員はいかなる人種、国籍、性別、職業、宗教であってもかまいませんが、年齢満20歳から40歳までであることを要し、“品格ある青年”でなければなりません。したがっていかに長期間にわたり、有能で活動的な会員であっても、満40歳に達したら退会しなければなりません。この素晴らしい年齢制限のゆえに、青年会議所は絶対に若さを失わず、常に希望に溢れ、未来に向かった前進を続ける団体として活動することができるのです。

青年会議所は世襲経営者のクラブではありませんし、単に社会奉仕を行う団体でもありません。青年会議所は未来を目指し、よりよき明日をめざしてわれわれの住む地域社会・国家・全世界のために、われわれが今日の犠牲を払うことを厭わず、常に進歩への挑戦を行う、理想と具体的総合的な施策をもった青年指導者の運動です。

組織

会員は自分が住んでいる地域にある青年会議所に所属しています。われわれが会員であることは市民としての自発的な自由な意志によるのです。それゆえにこの運動の単位は、あくまで各地青年会議所の日常の活動にあります。

1949年2月、東京に始まった日本の青年会議所運動は、50余年の歳月を経て、戦後日本の民間運動の白眉といわれるほどの拡大発展をとげました。現在、日本の隅々にわたり、679都市で活動を続け、会員約32,400名を擁する、青年運動最大の団体となりました。全国679青年会議所はそれぞれ集まって、47ブロック協議会を構成し、さらにそれが日本を10地区に分ける地区協議会が集められ、それを総合調整する機関として日本青年会議所があります。日本青年会議所は国際青年会議所(JCI-JUNIOR CHAMBERINTERNATIONAL)に加盟して、国際的なJCの運動の一翼をになって活動していますが、世界中では約16万5000人の会員が同じ理念のもとに国際的な同志感をもって運動を続けています。

事業目標 “社会と人間の開発”

創立以来の“個人の修練、社会への奉仕、世界との友情”の青年会議所の三信条は、われわれの運動50余年の展開の中で、年を追って具体化され、青年会議所運動とは要するに、“指導力開発と社会開発”であるとの事業スローガンに固まってきました。われわれ会員は市民社会の一員として市民と共通の生活基盤に立ったものの考え方

見方を出発点とし、市民の共感を求め、住みよい明るい豊かなまちづくりに向かって努力するとともに、青年会議所日常活動の場を通じ、われわれ個人個人をよりよく開発することが青年会議所運動にほかならないと考えます。

青年会議所の“指導力開発”とは民主的な集団指導力あるいは集団運営能力の研究と実践であるといわれます。まず会員個人がすぐれた市民、職業人であるために自ら厳しく訓練し、さらに市民社会の中にあつて、市民が目標に向かつて一致協力するように働きかけながら市民とともに進む、その全過程が青年会議所のいう指導力開発です。

指導力開発を推進するもっとも有効な手段として、青年会議所は“社会開発計画”事業を中心とする運動をもっています。会員一市民が住むまちの明るい豊かな明日のために、それぞれのまちの問題を市民の中から掘りおこし、市民とともにその解決をはかるという方法です。

青年会議所運動は自由な自発的な意志により加入した会員の起こす運動であるからには、われわれのまちの運動、市民運動の中心でなければなりませんし、市民にその意志を認められなければなりません。

青年会議所の目標は明るい豊かな社会の創造であり、その新しい社会をリードするにふさわしい人を数多くつくることです。

青年会議所とその運動は決して完成されたものではなく、社会の進歩とともに、さらに発展していくと思われま

す。青年会議所は時代とともに新しい呼吸を続け、次々と新しい青年がこの団体を背負っていくでしょう。

青年会議所は常に英知と勇気と情熱を持った青年を求めて、その門戸を大きく開いています。

(2000 字 解説文)

JC宣言文とその解説

JC宣言文

「日本の青年会議所は」

まず初めに、全国の会員にも外部の方にも、このJC宣言文の主体が誰なのかを明確にし、組織としての責任と役割、そして運動の方向性を再確認することが必要です。

「青年会議所は」と明示することで、この宣言文が会員個人ではなく、「組織」としての宣言であることを示しています。

また、「日本の」とすることで、国内における全ての青年会議所がJC宣言文の主語であることを明示し、志を同じくする全国の会員同士の強い「連帯」も表現しています。

「希望をもたらす変革の起点として」

青年会議所は、明るい豊かな社会を創るために、社会により良い変化を生み出す「変革」を運動として起こすことに挑戦し続けてきました。

物事のはじまりを意味する「起点」は、青年会議所が「率先して行動する組織(Do-tank)」であれという矜持を表現し、私達から社会変革を生み出していくという意志も表しています。

そして、その運動によって生み出すものの本質は、誰もが、社会と自らの人生をより良くすることができると思感する「希望」であることを示しています。

「輝く個性が調和する未来を描き」

昨今の潮流の中で、グローバリズムからナショナリズムへ、また利他から利己へと、行き過ぎた国家主義や個人主義が助長され、国家間のみならず地域社会の中においても「分断」や「対立」が生まれており、2020年に発生した新型コロナウイルスの感染拡大によって、それは加速しています。

本来であれば、考え方や生き方の違いは二項対立の構図ではなく、多様性や包括性といった価値観の中で、異なる「個性」として尊ばれるべきものです。

「調和」は、同調を強要し個性を抑圧するものではありません。「人間の個性はこの世の至宝である」と信じる青年会議所は、特定の政治思想にも、また、ナショナリズムや宗教、人種、ジェンダーにも偏らず、あらゆる若者が挑戦できる社会に開かれた組織であるからです。

この様に、広がりつつある「分断」の時代において、様々な個性やアイデンティティの架け橋となる「未来を描く」強い意志を示しています。

「社会の課題を解決することで」

青年会議所は「社会に対して何をする組織なのか?」という問いに対する明確な答えを表しています。

地域に根差す青年会議所の運動は、社会の幅広い課題を抽出し、自らそれを解決することと位置付けています。

「社会の課題」とは、地域固有の課題だけではなく、経済の再生や少子化、高齢化といった国家的な課題、あるいは気候変動や人権問題といった国際的な課題を含み、およそ青年が取り組むべき様々な課題を包括しています。どのような社会課題であっても、それは地域だけではなく国家や世界と複雑に関係し合っているからです。

だからこそ、私たちは、多面的な「社会課題」を解決する運動を地域毎に起こし、そして、私たちが持つ組織のネットワークによって全国、あるいは世界的な運動へと拡大させ、より良い社会を創り出すことができることを表しています。

「持続可能な地域を創ることを誓う」

日本の青年会議所は、1990年に「地方分権推進宣言」を、さらに、2019年には「SDGs推進宣言」を総会で決議しました。「持続可能」とは、地域の人口や財政、環境を持続可能なものとするに留まらず、そこに住まう全ての人々が笑顔で生きがいを持ち、自ら挑戦し続けることができる社会を意味します。

全国各地の青年会議所が様々な社会課題を解決することで、自らが住まう地域を持続可能なものとし、そしてその総和によって「明るい豊かな社会」を創ることを誓う形で宣言しています。

JC三信条とその解説

トレーニング（個人の修練）

サービス（社会への奉仕）

フレンドシップ（世界との友情）

■ 1950年5月1日、現在の日本青年会議所の前身とも言えるJC懇談会が開かれ、JC運動の行動綱領として上記の3つが採択された。

■ つまり、JC運動なるものは、まず若い人びとが集まって自己啓発、修練をするものであり、ついでその力を用いて地域社会にサービスするものであって、さらにそのトレーニング・サービスに徹することも、またひとしくトレーニングにつながるものである。

■ この三信条は非常に単純ではあるが、ここに今日の指導力開発の萌芽を求めることができる。この機会に、その代表的な解釈を述べておく。

「三信条はJC生活規範だ」

第1の解釈は、「3つの信条は分けられない。有機的につながっている」という立場である。3つの原則が同じレベルにあるとする考え方だ。

この見方は、JC三信条がキャッチフレーズとして誕生した当時のいきさつを考えればもっともうなずけることである。

JCI東京の創立20周年記念誌には、「……このJC運動なるものは、まず若い人々が集まって自己啓発、修練をするものであり、ついでその力を用いて地域社会へのサービスをするものであって、さらにそのトレーニング・サービスを支える力として全員全体を貫くフレンドシップがある。一方、フレンドシップを培うことも、サービスに徹することも、またひとしくトレーニングにつながるものである。と理解されたのであった。」とJC三信条採択時のようすが記されている。

第2は、「奉仕」を強調する立場である。「奉仕を実践する過程で、修練と友情が達成される」とする。森下泰元会頭は、JCの目的について、「JCの目的は、知識ある青年たちの“社会的権威の実現”にあり、それは“対社会的義務”でさえある。社会的権威の実現、すなわち“社会奉仕”の内容は歴史的社会的に決定せられその過程において修練と友情は達成される。」と、第2の立場を代表して述べている。

第3は、「修練」を強調する解釈である。「JC3信条の奉仕・修練・友情は同レベルのものではない。修練のための奉仕であり、修練場としての友情である」とする立場に立つ。

1963年に発刊されたマニュアル『LT - BooK』には、第3の立場を代表して、次のような1節がある。「……我々周知の3つの路線“トレーニング”“サービス”“フレンドシップ”は、実は並列的等価のものではなくて“トレーニング”に重点があることは明らかで、……青年会議所活動とは“社会のためになる様な行動を通じて行うリーダーシップ・トレーニング”のことだ。」

用語説明

①JC

JUNIOR CHAMBERの頭文字をとったもので
組織としての青年会議所の意。

②JAYCEE (Jayceeでも可)

青年会議所会員個々人のこと。(注:但し、この使い分けは、英語圏のNOMではそれほど厳密ではない。)

③JCI

JUNIOR CHAMBER INTERNATIONALの頭文字をとったもので、国際青年会議所の意。各国青年会議所の連絡・統合・調整機関であり、本部はアメリカ・ミズリー州セントルイスにある。

④NOM(ノム)

NATIONAL ORGANIZATION MEMBERの頭文字をとったもので、国家青年会議所の意。例えば日本青年会議所は、国政青年会議所の中の1NOM(国際青年会議所)である。

⑤LOM(ロム)

LOCAL ORGANIZATION MEMBERの頭文字をとったもので、国家青年会議所の中に属する各地会員会議所の意。現在、日本青年会議所の中には684LOM(各地会員会議所)がある。(2022年1月)

⑥地区協議会

日本青年会議所としての事業計画・方針などを各ブロック及び各地青年会議所に伝達浸透させ、また一方では、各地青年会議所の事業活動・意見などを日本青年会議所に報告や連絡する為の機関である。

現在、日本青年会議所は10区分されており、10の地区会員会議所があり、主な事業としては、各地区会員大会の主催がある。

※DOMといった表記が一部使われていますが、誤りです。

⑦ブロック協議会

日本青年会議所及び地区協議会としての事業計画・方針などを各地青年会議所に伝達浸透させ、また一方では各地青年会議所の事業活動・意見などを、日本青年会議所及び地区協議会に報告連絡する為の機関である。

現在、日本青年会議所には47ブロック協議会があり、主な事業としては、各ブロック会員大会の主催がある。

※BOMといった表記が一部使われていますが、誤りです。

⑧JCデー

日本において最初に青年会議所が開始された1949年9月3日を記念して、毎年9月3日をJCデーと称している。

アクティブシチズンデー

毎年12月11日には、JCI本部において、本年度と次年度JCI会頭出身国の国旗が入れ替わる日となっており、2010年の世界会議大阪大会において、正式にその日の名称が決められた。なお、このアクティブシチズンとは、行動する市民と訳すことが出来、JCI日本の会員のJC活動こそがJAYCEEとしてあるべき姿と考えられて、JCI日本のメンバーのことを示すとも言われている。

⑨承認伝承伝達式

新規に設立を承認されたJCに対し、JCI日本からその承認証が正式に伝達される時の式典である。

⑩スポンサーJC

青年会議所未設立の地域の青年有志にお働きかけ、設立を指導援護する青年会議所のこと。

※一関青年会議所のスポンサーJC・・・JCI盛岡

※JCI水沢、JCI大船渡のスポンサーがJCI一関

⑪シスタJC

国際青年会議所に加盟している国家青年会議所に所属する青年会議所の相互間の親善と友好の為に、相互の交流を行う締結関係を結んだ青年会議所のこと、姉妹JCともいう。

⑫世界会議(ワールドコンGRESS)

国際青年会議所が主催する年1回開催される世界会議のことで、国際青年会議所の事業計画・予算の決定・役員選出・褒賞の授与・翌年度の開催地の決定などが行われるJCI最高の意志決定機関である。開催地は毎年異なるが、開催中には総会・理事会・常任理事会・分科会・視察ナショナルパーティー・アワードバスケットなどがプログラムされている。第1回JCI会議は1946年パナマで開催された。

⑬エリアコンファレンス

国際青年会議所は世界の加盟NOMを地域別に4つに分けている。アフリカ・中近東地域(旧エリアA)、アジア・オセアニア地域(旧エリアB)、南北アメリカ地域(旧エリアC)、ヨーロッパ地域(旧エリアD)の各地域で年1回5月から6月に行われる国際会議をエリアコンファレンスと呼び、アジア・太平洋地域のエリアコンファレンスは、ASPAC(アジア太平洋地域コンファレンス-ASIA PACIFIC AREA CONFERENCE)という名で親しまれている。

⑭直前会頭・直前理事長

単年度制をとっているJCでは、日本青年会議所前年度会頭を直前会頭、LOMの前年度理事長を直前理事長と称している。地区・ブロックでは、直前会長と呼ぶ。

⑮日本JCシニアクラブ

日本JCシニアクラブは、JC卒業生同窓会として相互の親睦を図るとともに、現役活動を陰ながら援助しようという目的で1960年設立された。JC卒業生ならだれでも入会出来る。

⑯セネター制度 (SENATOR)

JC終身名誉会員制度のことで、JCI運動に多大なる貢献をしたメンバーをLOMが承認・推薦し、NOM及びJCIの認証を得てその資格(修身番号)が与えられる。与えられた終身番号は、会員の死後も永久に残るという名誉ある資格である。

⑰出向者

各地青年会議所より国際青年会議所・日本青年会議所・地区協議会・ブロック協議会へ役員や委員として出向して行くメンバーのこと。

⑱「WE BELIEVE」

JCI日本は、対外的・対内的な広報活動の強化と、拡充を図るために、月刊誌「WE BELIEVE」(毎月1回15日発行、A4判)を全会員に配布している。

⑲セミナー

講師の指導のもとに参加者が集って、討議して進める共同研究のことで、ゼミナールともいう。

⑳シンポジウム

語源はギリシャ語といわれて親しい者同士がなごやかに食事をする意である。ある大きなテーマを中心に多くの報告者によって各々の立場から関連したことが講演形式によって述べられる。この特徴は、討論のないことと、あらゆる立場からテーマについて浮き彫りにされるということである。討論は行われぬが、各報告に対する質問は許される。

㉑パネルディスカッション

パネリストによる密度の高い座談会義である。多くの者が全員討議するかわりに数名のメンバーを選んでそのメンバー間で自由に討論してもらう形式である。

㉒コロッキー

パネルディスカッションと同様の形式による会議法で、途中専門家が追加出席して意見を述べ、討論が一方的な方向へ行かない様にコントロール出来る。

②③バスセッション

討論方法である。まず皆が発言できるような小グループに分け、ここで個人個人の意見を自由に表現させ、その意見を調整し、持ちより、全員参加の総会を開く。即ち全員に発言を許し、会議の討論に貢献させる方便として考えられた。この小グループによる話し合いの過程をバスセッションという。

②④ブレインストーミング

皆が集まって、あらかじめ議題を定めず、何人にも拘束されずに自由に自己の創造的アイデアを思いつくままに出していき、集団の集中的ディスカッションによって良い考えを発見・発展させようとする方法。(集団的創造力開発の方法)

②⑤フィリップ66方式

バス形式に似たもので、多人数の場合小グループ(6人)に分け、6分間という時間を定めて短時間に集中的に各グループが会議を行う方式のこと。66式討議ともいう。

②⑥KJ法

川喜田二郎氏によって開発された創造力開発の手法。紙切れ法とも呼ばれ、本調査員関連があるか否かの判断をしないで、ひたすら情報をカード化し、その後、ある一定の方法でこれを組み立てて判断するという手法。例えば、グループごとに話し合い、全体会議で発表してまとめていく。

②⑦ロバート議事法

ロバート・ルールズ・オブ・オーダー。「多数者の権利」・「少数者の権利」・「個人の権利」・「在不在者の権利」の4つの権利と、「一時一件の原則」・「一時不審議の原則」・「多数決の原則」・「定足数の原則」の4つの原則を基本的なルールとして行う会議運営の方法。これは国連をはじめ、世界各国で採用され、青年会議所でも正式に採用されている。

②⑧コーディネーター

会議の際に、それまで出された意見を集約、調整し、会議を進行させる担当者。

②⑨アドバイザー

パネルディスカッションなどの討議会の時に、会議を進行させる為に助言を行う講師のこと。

②⑩パネリスト

パネルディスカッションを行う時に、各分野から出席する数名の意見発表者のこと。

②⑪CD

コミュニティー・ディベロップメントの略で社会開発のこと。

②⑫LD

リーダーシップ・ディベロップメントの略で指導力開発のこと。

②⑬MD

マネージメント・ディベロップメントの略で経営開発のこと。

②⑭LIA

リーダーシップ・イン・アクションの略で、LDが発展拡大したものである。個人と集団の指導力を開発するプログラムで、実践指導力開発と邦訳されている。1968年のマルデルプラタ世界会議でJCI恒久プログラムに採択された。

②⑮HD

ヒューマン・ディベロップメントの略で人間力開発のこと。

②⑯AOY

アクセント・オン・ユースノ略で、青少年開発のこと。その地域社会に住む青少年を参加させて、地域社会の開発の為により良き道を見出すよう青年達を助ける方法を提供するプログラムである。1970年にダブリン世界会議でJCI恒久プログラムに採択された。

③7 三分間スピーチ

LD手法の一つで、電話一通話の時間内即ち三分間で自己紹介から始まり、テーマにそったスピーチを完了させる方法。

③8 FC構想

フューチャークラブ構想の略で、青少年が手をつなぐ運動のこと。地域社会にある既存の青少年グループ。会員自身の子弟、会員の経営する企業内の勤労青年などを始動団体として、明日の日本の為の広場づくりを進める働きかけのことである。

③9 カテゴリー

本来の意味は、同一性のものが属する部類を指すが、国際青年会議所では、重点事業の項目のことをいう。

④0 チャーターメンバー

各地青年会議所会議所が設立された時に入会した初代会員の呼称。

④1 スリーピングメンバー

資格を持ち、活動が義務付けられているにもかかわらず、その活動及び例会・総会などにも積極的に参加しない会員のこと。

④2 アクティブメンバー

スリーピングメンバーの反対の意。全体の中の個人・個人であつての集団であることの自覚を持ち、そして責任を果たし、社会開発と自己開発に挑戦し、活発に行動する会員のこと。

④3 ガイダンスメンバー

オリエンテーション、委員会等でガイダンス勉強期間中の新入会員の呼称。

④4 アテンダンス

総会・例会・各会合に出席することをいう。そして出席の証しをアテンダンスカードと呼ぶ。

④5 エントリー

褒賞獲得や、または大会誘致等々の為に立候補申請することをいう。または出向者の推薦及び登録のことをさす。

④6 アジェンダ

理事会や委員会等を運営する時の式次第のこと。

④7 マニュアル

手引書のこと、日本JCには組織に関するもの、運営に関するもの、事業に関するもの等多くのマニュアルを持っている。

④8 人間力大賞(旧TOYP大賞)

各地で、様々な分野で、素晴らしい考え方をもちそれを実践し、まちの地域市民として活動を続けている将来性のある若者(TOYP=傑出した若者)の功績を讃え、その運動を広く紹介するとともに、そこから学ぶことを目的としている。

④9 褒賞

青年会議所運動を通じて地域に貢献した会員会議所を称え、その名誉を全国に発信するとともに、各地会員会議所がこれらの事業を参考として新たな気づきや学びを得る機会とし、関わるすべての人に地震や誇りを与え、メンバーのモチベーションや未来の青年会議所運動の発展に資することを目的に褒賞制度を設けている。

⑤0プロボノ

ラテン語のPro Bono Publico(良い公共のために)を略した言葉。JCにおいては「公共の利益のためのスキル提供による無料奉仕」と定義し、社会人が仕事を通じて培った専門的知識やスキル・経験やノウハウなどを活かして社会貢献することを意味する。

新入会員のために

新入会員の心得

(1) 新入会員の心得

1. 充実したJCライフをおくる為に、JCをよく理解しなければならない。
2. 常に自分の考えをわかり易く表現することができなければならない。
3. 常に若さと活気に溢れ、笑顔を忘れてはならない。
4. 会員としての責任感を持ち、積極的に参加しなければならない。
5. 進んで難しい仕事に当たり、責任をもって完成させなければならない。
6. 議事法ほか会議の進め方をマスターしなければならない。
7. 完全な議事録を作成できなければならない。
8. 会議の議長を務めることができなければならない。
9. 与えられた時間で自分の意見をまとめ、発表できなければならない。

(2) 会員の心構え

1. 常に高い目標を持ち、その目標に向かって努力しなければならない。
2. 自分自身を識り、向上させなければならない。
3. 目的に向かって計画的に自己を管理しなければならない。
4. 特に自分自身の健康管理をしなければならない。
5. 確固たる信念と強い意思のもとに、目標に向かって直ちに行動を開始すること。
6. 一日一度は自分を見直すこと。
7. 地域高知印の一人として、地域社会の活動に進んで参加しなければならない。
8. 正しいJC運動を地域社会に広めなければならない。

(3) JC会員としてのマナー一人ひとりの言動や行動が多くの会員あるいは組織の品位を傷つけることにつながるから、会員としてのマナーを厳守しなければならない。

1. 品格ある青年として行動する。
2. 常に礼儀正しい服装をし、必ずバッヂをつける。
3. 常に他人に対し、不快の念を与える言動を慎む。
4. 常に他人の話聞く、その権利を尊重する。
5. 諸通知の出欠ハガキは、すみやかに必ず返信を出す。なお、出欠の変更又は遅刻の場合は、必ず事前に事務局まで連絡する。
6. 諸会合には定刻に出席し、時間の無駄使いをしない。また、諸会合に出席した時は、必ず署名登録をする。
7. 発言する時は、挙手して上衣のボタンをかけ、所属および氏名を明確に述べる。
8. 諸会合では、私語・雑談を慎む。
9. 先輩には敬意を示し、挨拶をすると同時に名刺を交換する。
10. 会員同士の付き合いには、相手の人格を損なわないように敬意を示し、笑顔で握手する。